

高知県埋蔵文化財センター年報

第23号

2013年度

公益財団法人 高知県文化財団
埋蔵文化財センター

高知県埋蔵文化財センター年報

第23号

2013年度

公益財団法人 高知県文化財団
埋蔵文化財センター

序

高知県埋蔵文化財センターは大規模開発に対応すべく円滑な発掘調査事業の推進と共に高知県立埋蔵文化財センターの施設並びに出土文化財の管理及び普及教育事業を広げるべく指定管理者として取り組んでいます。

まず、発掘調査事業では国関係で高知南国道路外埋蔵文化財発掘調査業務、県関係では新図書館等複合施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査業務を受託し、南国市田村北遺跡や追手筋遺跡を始めとして3遺跡の発掘調査と香南市東野土居遺跡や弘人屋敷跡を含む9遺跡の整理作業を中心に実施しました。追手筋遺跡は、調査面積が3,600㎡と城下町遺跡の調査としては広範囲で、土佐藩の重臣屋敷で池遺構も検出しており、屋敷や城下町の変遷を考える上で貴重な資料を提供しています。

次に指定管理事業では出前考古学教室、公開講座等事業、企画展等事業を三本柱とし、出前考古学教室では79校に出向き、親子考古学教室では四万十市、宿毛市、安芸市に加え四万十町、須崎市、室戸市でも開催し、より多くの県民の方に参加して頂けるよう計画し、かつ古代ものづくり体験教室の平日開催や開催回数の拡大など昨年度以上に充実した内容の公開講座を用意すると共に企画展等の展示会では分かりやすい展示に努めました。

また、年間行事カレンダーの作成やホームページの更新を随時行うなど利用者の便を図ると共にチラシの配布など行い、親子考古学教室では延べ1,132人の親子に参加頂きました。さらに、高知県文化財団として県立ミュージアム出張ワークショップ@イオン高知への参加など埋蔵文化財センターに親しんで頂けるよう努めました。

今後、発掘調査事業の縮小が予測されますが、これまでの成果をより多くの県民の方に伝える普及教育事業をさらに推進する計画です。そして、県民文化の振興に資する施設と同時に土佐のいにしえを紐解く場所にしていきたいと思っております。

これからも皆様のご協力とご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年10月

公益財団法人高知県文化財団 埋蔵文化財センター
所 長 森田 尚宏

例言

1. 本書は公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターの平成 25 (2013) 年度事業の概要をまとめたものである。
2. 「Ⅲの 2 の(1)～(4)」と「Ⅳ 各遺跡の発掘調査概要」は担当が中心となって執筆し、それ以外は松田直則が執筆し取りまとめて編集した。
3. 「Ⅳ 各遺跡の発掘調査概要」に掲載した遺跡位置図はS=1/25,000の地形図を使用している。
4. 本書作成データについては、巻末の奥付上段に記している。

本文目次

I 公益財団法人高知県文化財団..... 1	(4) 埋蔵文化財センター所在地及び連絡先..... 6
1. 公益財団法人高知県文化財団の概要..... 1	III 年間事業の概要..... 7
(1) 設立趣旨..... 1	1. 発掘調査事業..... 7
(2) 目的等..... 1	(1) 受託事業..... 9
(3) 設立年月日..... 1	(2) 発掘調査報告書..... 11
(4) 名称変更年月日..... 1	2. 指定管理事業..... 13
(5) 事務局所在地..... 1	(1) 公開展示..... 15
2. 公益財団法人高知県文化財団の組織..... 2	(2) 公開講座等..... 17
(1) 財団組織..... 2	(3) 情報公開等..... 22
(2) 財団役員..... 2	(4) 出前考古学教室..... 24
II 埋蔵文化財センター..... 3	(5) 研修事業..... 30
1. 埋蔵文化財センターの概要..... 3	(6) 講師等職員の派遣..... 32
(1) 設立趣旨..... 3	IV 各遺跡の発掘調査概要..... 33
(2) 事業内容..... 3	1. 田村北遺跡(13-1NTK)..... 33
(3) 設立年月日..... 3	2. 追手筋遺跡(13-2KO)..... 34
(4) 埋蔵文化財センター所在地..... 3	3. 史跡高知城跡追手門(13-3KK・4KK)..... 37
2. 埋蔵文化財センターの組織..... 3	V 条例・規則等..... 39
(1) 埋蔵文化財センターの組織図..... 3	1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に 関する条例..... 39
3. 埋蔵文化財センターの施設..... 5	2. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に 関する規則..... 43
4. 利用方法等について..... 6	3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の 指定..... 44
(1) センターの利用..... 6	
(2) 利用時間..... 6	
(3) 休館日..... 6	

表目次

表1 高知県文化財団評議員..... 2	表14 平成25年度Web公開した報告書等..... 20
表2 高知県文化財団役員..... 2	表15 平成25年度物品・遺物(県有物)貸出一覧..... 21
表3 平成25年度高知県埋蔵文化財センター職員一覧... 4	表16 平成25年度施設見学者一覧..... 23
表4 発掘調査推移表..... 7	表17 平成25年度現地説明会一覧..... 24
表5 平成25年度受託発掘調査事業(本発掘調査遺跡) 一覧..... 8	表18 平成10～25年度出前考古学教室実績一覧..... 24
表6 平成25年度受託発掘調査事業(整理作業/報告書 刊行分)一覧..... 9	表19 平成25年度出前考古学教室前期実績一覧 (授業実施数)..... 25
表7 平成25年度埋蔵文化財センター刊行報告書一覧... 11	表20 平成25年度出前考古学教室後期実績一覧 (授業実施数)..... 26
表8 入館者推移表と平成25年度の入館者数..... 13	表21 平成25年度埋蔵文化財担当者研修参加者..... 30
表9 公開講座参加者数..... 16	表22 平成25年度職員自主企画研修..... 31
表10 平成25年度公開講座1..... 17	表23 平成25年度職員専門研修..... 31
表11 平成25年度考古学講座(考古学からわかる歴史教室)... 19	表24 平成25年度講師等派遣依頼一覧..... 32
表12 平成25年度公開講座2(親子考古学教室)..... 19	表25 平成25年度会議等参加者一覧..... 32
表13 平成25年度遺跡解説会..... 20	

図目次

図 1 高知県文化財団組織図.....	2	図 7 平成 25 年度受託事業整理作業位置図(番号は受託発掘	
図 2 高知県埋蔵文化財センター組織図.....	3	調査事業(整理作業/報告書刊行分)一覧表の番号と一致)....	10
図 3 高知県立埋蔵文化財センター敷地と 1F 平面図		図 8 入館者に占める親子考古学教室参加者の割合 ...	14
(S=1/800).....	5	図 9 マスコット.....	14
図 4 高知県立埋蔵文化財センター 2F 平面図		図 10 田村北遺跡位置図.....	33
(S=1/800).....	6	図 11 追手筋遺跡位置図.....	34
図 5 受託発掘調査事業推移グラフ.....	7	図 12 史跡高知城跡追手門石垣位置図.....	37
図 6 平成 25 年度受託事業発掘調査位置図(番号は受託発			
掘調査事業(本発掘調査遺跡)一覧表の番号と一致).....	8		

写真目次

写真 1 年間行事カレンダー.....	13	写真 14 遺物の展示解説.....	28
写真 2 企画展 1 ポスター.....	15	写真 15 火起こし.....	28
写真 3 巡回展ポスター.....	15	写真 16 土器づくり.....	29
写真 4 企画展 2 ポスター.....	16	写真 17 職員研修.....	31
写真 5 特別展ポスター.....	17	写真 18 田村北遺跡調査風景.....	33
写真 6 特別展記念講演会.....	17	写真 19 追手筋遺跡全景.....	34
写真 7 勾玉づくり.....	18	写真 20 村田家池跡.....	35
写真 8 親子考古学教室 2013.....	18	写真 21 木簡「百々出雲」.....	35
写真 9 土器づくり.....	19	写真 22 百々家池跡.....	36
写真 10 現地説明会(追手筋遺跡).....	22	写真 23 高知城追手門東北矢狭間堀石垣全景.....	37
写真 11 ホームページ.....	22	写真 24 追手門東北矢狭間堀西面石垣解体状況.....	38
写真 12 施設見学.....	24	写真 25 石垣整備完成.....	38
写真 13 授業.....	27		

I 公益財団法人高知県文化財団

1. 公益財団法人高知県文化財団の概要

(1) 設立趣旨

近年、所得水準の向上や自由時間の増大等を背景に、生活のゆとりを楽しみ、人間らしい生き方を求める、いわゆる生活の質的向上に対する文化的ニーズが急速に高まりつつあり、県民の意識、行動の中に、広く芸術文化に親しみ、歴史と伝統、個性ある文化を再評価すると共に、これらの活動に積極的に参画することに生活の意義を見出し、人間としての充実感を高める、という方向が現われてきている。

このような時代すう勢の中で、県では、平成3年春に歴史民俗資料館、埋蔵文化財センターが発足予定であり、また、その数年後には美術館が開館を控えている等、県民文化の振興のための施設整備がなされつつあるところであるが、これらの施設の運営は勿論のこと、県下の芸術文化に係る諸事業が、多様化する県民の文化的ニーズを的確に捉え、県民の期待に応えるかたちでなされることによってこそ、県民の芸術文化への意識が一層高まり、これからの個性豊かな、新しい県民文化が育まれるものである。

このため、県民の総意を汲み、一致協力して、これからの県民文化の振興を図って行くことのできる体制作りが必要であるという認識のもと、ここに、高知県と関係諸団体によって、財団法人高知県文化財団を設立し、もって、本県の新しい時代の、総合的、体系的な芸術文化活動の展開を担う中核的推進母体として役割機能を果たすことにより、広く県民意識を高揚し、県民福祉と県勢の発展に寄与しようとするものである。

(2) 目的等

この法人は、芸術文化の振興及び文化財等の調査研究、収集、保存、活用等を図り、県民の教育、学術及び文化の振興に寄与することを目的とするとともに、その目的を達成するため、次の事業を行う。

- ① 音楽、演劇、美術その他の芸術文化振興事業
- ② 文化財等の調査研究、整理保存、展示等の事業
- ③ 委託等を受けた芸術文化施設の管理運営
- ④ その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(3) 設立年月日

平成2年3月28日

(4) 名称変更年月日

平成24年4月1日財団法人高知県文化財団を名称変更し、移行したことにより設立

(5) 事務局所在地

高知県高知市高須353番地2

2. 公益財団法人高知県文化財団の組織

(1) 財団組織

① 役員

評議員7名 理事長1名 理事10名 監事2名

② 事務局

総務部長－総務課長－事務職員

③ 組織図

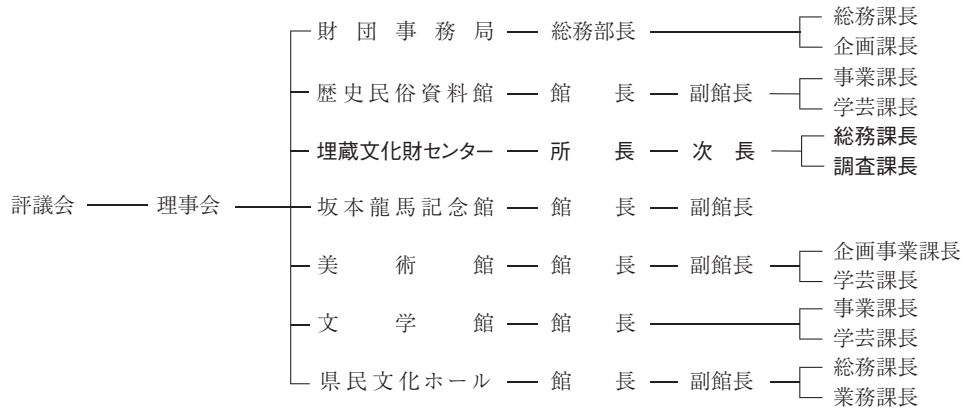


図1 高知県文化財団組織図

(2) 財団役員

表1 高知県文化財団評議員

役員名	氏名	所属役職名	備考
評議員	内川 雅彦	(株)高知新聞社学芸部長	平成24年4月1日就任
〃	岡林 豊	(株)高知銀行常務取締役	平成25年6月10日就任
〃	勝賀瀬 淳	高知県教育委員会事務局教育次長	平成25年4月12日就任
〃	田中 正澄	高知県町村会事務局長	平成24年4月1日就任
〃	野村 直史	(株)四国銀行代表取締役頭取	平成24年4月1日就任
〃	森田 恵介	高知県市長会事務局長	平成25年4月12日就任
〃	吉村 和久	高知県監査委員事務局長	平成25年4月12日就任

平成26年3月31日現在

表2 高知県文化財団役員

役員名	氏名	所属役職名	備考
理事長	浜田 正博		平成25年4月12日就任
理事	岡崎 順子	高知県文化生活部長	平成25年4月12日就任
〃	青木 章泰	(株)四国銀行取締役会長	平成24年4月1日就任
〃	森下 勝彦	(株)高知銀行代表取締役頭取	平成25年6月10日就任
〃	岡崎 誠也	高知県市長会長	平成24年4月1日就任
〃	有岡 正幹	高知県町村会長	平成25年4月12日就任
〃	宮田 速雄	(株)高知新聞社代表取締役社長	平成24年4月1日就任
〃	竹内 克之	高知商工会議所副会頭	平成24年4月1日就任
〃	山本 眞壽	染織家	平成24年4月1日就任
〃	南 裕子	高知県立大学学長	平成24年4月1日就任
〃	藤田 直義	高知県立美術館長	平成24年4月1日就任
監事	酒井 満喜	(株)四国銀行お客さまサポート部長	平成24年8月22日就任
〃	廣光 良昭	税理士	平成24年4月1日就任

平成26年3月31日現在

Ⅱ 埋蔵文化財センター

1. 埋蔵文化財センターの概要

(1) 設立趣旨

公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターは、高知県における埋蔵文化財の調査研究及び資料の保存管理を行うと共に、埋蔵文化財愛護思想の普及啓発を図り、本県の文化振興に寄与することを目的とする。

(2) 事業内容

① 埋蔵文化財の発掘調査

県内における遺跡の発掘調査を行い報告書を刊行する。

② 埋蔵文化財の保存管理

発掘調査等による出土遺物、調査記録等の管理及び保管を行う。

③ 埋蔵文化財の研究・普及啓発

埋蔵文化財について調査研究を行うと共に、その成果をもとにした出土遺物の公開展示、現地説明会及び展示会の開催等により、埋蔵文化財愛護思想の普及啓発を図る。

④ 埋蔵文化財に関する資料収集及び情報提供に関すること

⑤ 高知県立埋蔵文化財センターの管理・運営に関すること

(3) 設立年月日

平成3年4月1日

(4) 埋蔵文化財センター所在地

高知県南国市篠原1437-1

2. 埋蔵文化財センターの組織

(1) 埋蔵文化財センターの組織図

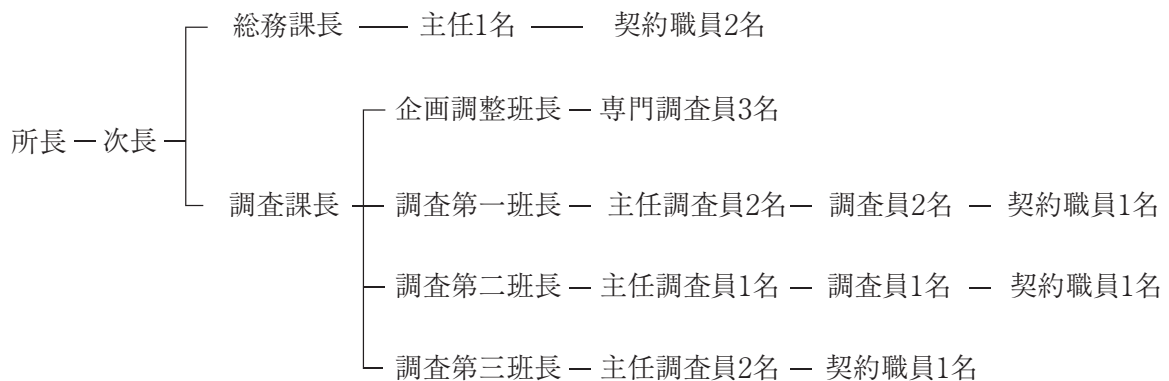


図2 高知県埋蔵文化財センター組織図

2. 埋蔵文化財センターの組織

表3 平成25年度高知県埋蔵文化財センター職員一覧

職 名		氏 名	所 属・派遣元	
所 長		森田 尚宏	県教育委員会文化財課副参事	
次 長		宮田 健輔	県教育委員会文化財課主任(1種)	
総務課	総務課長	野田 美智子	県教育委員会文化財課主任(3種)	
	主 任	黒岩 千恵	県教育委員会文化財課主任	
	契約職員	濱田 晶	(公財)高知県文化財団	
	〃	谷 幸絵	〃	
調査課	調査課長	廣田 佳久	県教育委員会文化財課主任(3種)	
	企画調整班	企画調整班長	坂本 憲昭	(公財)高知県文化財団
		専門調査員	茂松 清志	県教育委員会文化財課主任社会教育主事
		〃	藤野 明弘	〃
		〃	坂本 裕一	〃
	調査第一班	調査第一班長	出原 恵三	県教育委員会文化財課主任(4種)
		主任調査員	徳平 涼子	(公財)高知県文化財団
		〃	下村 裕	県教育委員会文化財課主幹
		調査員	菊池 直樹	(公財)高知県文化財団
		〃	畠中 宏文	〃
		契約職員	奥宮 千恵子	〃
	調査第二班	調査第二班長	池澤 俊幸	県教育委員会文化財課主任(4種)
		主任調査員	久家 隆芳	(公財)高知県文化財団
		調 査 員	山崎 孝盛	県教育委員会文化財課主査
		契約職員	廣内 美登利	(公財)高知県文化財団
	調査第三班	調査第三班長	吉成 承三	〃
		主任調査員	筒井 三菜	〃
		〃	宮里 修	県教育委員会文化財課主幹
		契約職員	小八木美佐子	(公財)高知県文化財団

3. 埋蔵文化財センターの施設

埋蔵文化財センターの施設は、現在本館、北館、南館、収蔵庫の4棟の建物(図3・4)で構成されており、本館と収蔵庫が平成12・13年度の国庫補助事業、南館が平成4・5年度の国庫補助事業、北館が平成2年度の県単事業として建設されたものである。

平成13年12月4日に落成した本館には、展示・研修室や特別収蔵庫、さらに情報管理室が確保され、調査・研究以外に公報・普及活動にも活用されている。

収蔵管理スペースとして、遺物保管がコンテナケース(W390mm・D590mm・H190mm換算)にして収蔵庫(3層)に30,000箱、南館1Fに4,416箱の計34,416箱、図書・図面保管庫には報告書等の書籍(H297mm・D210mm・W12mm平均として)が100,800冊、A1図面ファイル(H622mm・D442mm・W28mm換算)が3,360冊、A2図面ファイル(H440mm・D315mm・W28mm換算)が10,080冊、写真保管室には写真ファイル(H325mm・D315mm・W35mm換算)が9,472冊収納できるように設計している。

なお、施設の概要は以下のとおりである。

所在地： 高知県南国市篠原1437-1

敷地面積： 4,203㎡

建物構造： 本館・北館・南館 重量鉄骨構造2階建

収蔵庫： 重量鉄骨構造平屋建(3層積層収蔵棚)

建築面積： 2,073.93㎡

(本館：615.58㎡ 北館：259.20㎡ 南館：574.11㎡ 収蔵庫：619.40㎡ プロパン庫：5.64㎡)

延床面積： 4,136.16㎡

(本館：1,038.68㎡ 北館：518.40㎡ 南館：1,045.92㎡ 収蔵庫：1,527.52㎡ プロパン庫：5.64㎡)

事業費： 650,644,000円(本館・北館・南館・収蔵庫を含む)

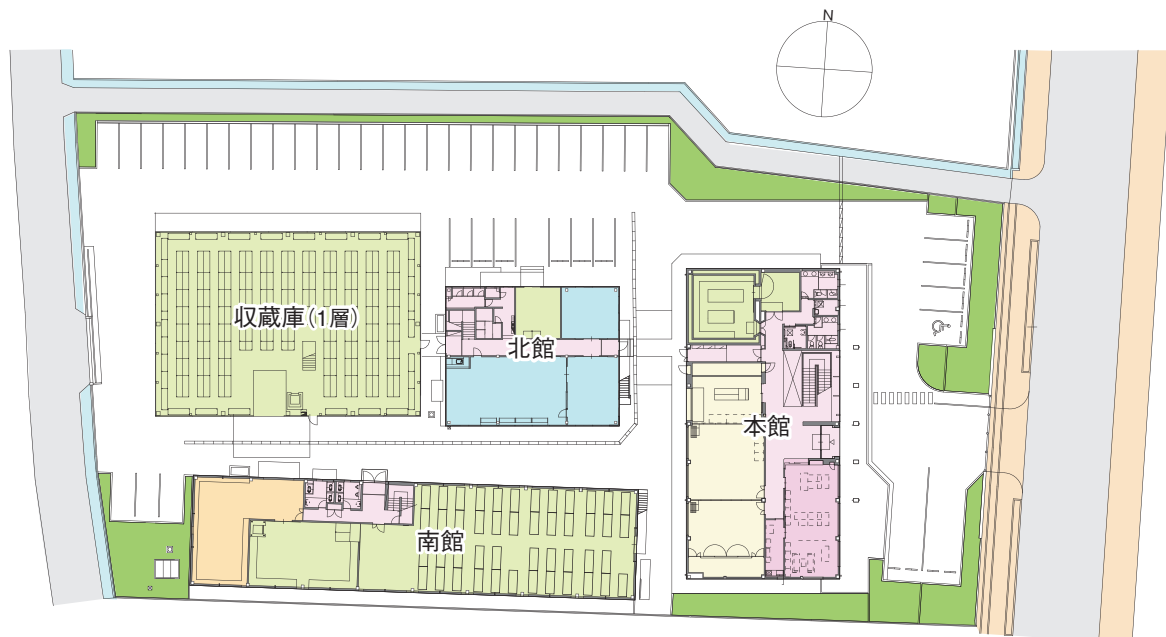


図3 高知県立埋蔵文化財センター敷地と1F平面図(S=1/800)

4. 利用方法等について

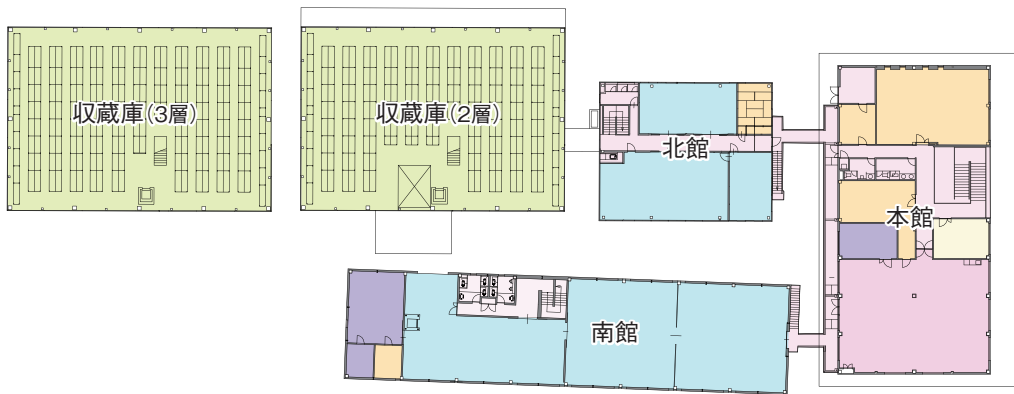


図4 高知県立埋蔵文化財センター2F平面図(S=1/800)

4. 利用方法等について

(1) センターの利用

利用者は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料の観覧、閲覧、撮影又は模写等ができる。

(2) 利用時間

午前8時30分から午後5時まで

(3) 休館日

土・日曜日、祝祭日、12月29日～1月3日

(巡回展の期間は土・日曜日、祝祭日も開館、企画展2の期間は土曜日と公開講座等開催日は開館)

(4) 埋蔵文化財センター所在地及び連絡先

住所.....〒783-0006 高知県南国市篠原1437-1

Tel.....代表(088)864-0671 調査課(088)864-6266

Fax.....代表(088)864-1423 調査課(088)864-6268

Email.....maibun@kochi-bunkazaidan.or.jp

URL.....<http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~maibun/>

WebDB.....<http://pc2.sites-tosa-unet.ocn.ne.jp/>

Ⅲ 年間事業の概要

1. 発掘調査事業

平成25年度に受託した件数は4件で、調査面積は4,554㎡、受託費は243,230,458円であった。昨年度より172,023,542円少なく、対前年度比は39%の減少となった。昨年度に比べ受託件数で1件増加しているが、調査面積は29,944㎡の大幅減少となった(表4, 図5)。受託件数や調査面積が少ないのは、国土交通省関係の事業である高知南国道路(2遺跡)、南国安芸道路(2遺跡)、高知西バイパス(4遺跡)の所管がいずれも土佐国道事務所であったため1件の契約となったことと、整理作業が中心であったことによる。国関係で唯一受託した土佐国道事務所関係の高知南国道路外(高知南国道路・南国安芸道路・高知西バイパス)事業では高知南国道路の田村北遺跡(田村遺跡群と名称変更)以外はいずれも整理作業のみであった。

経費の内訳は、国関係が147,273,000円(61%)、県関係が95,957,458円(39%)で、昨年度に比べ県関係が23ポイント増加した。これは国関係の受託経費が発掘調査面積の減少により200,008,200円減少したが、県関係の受託経費が追手筋遺跡の発掘調査などで27,984,658円増加したことによる。

今後の発掘調査事業は減少傾向であり、平成26年度は高知南国道路で田村北遺跡、南国安芸道路で東野土居遺跡、高知西バイパスでバーガ森北斜面遺跡・西浦遺跡・奥名遺跡、新図書館建設に伴う追手筋遺跡、史跡高知城跡追手門東北矢狭間堀石垣解体調査の各整理作業が予定されているが、発掘調査は予定されていない。

なお、高知南国道路外事業では平成15年度から始まった高知南国道路と南国安芸道路、平成19年度から着手した高知西バイパス

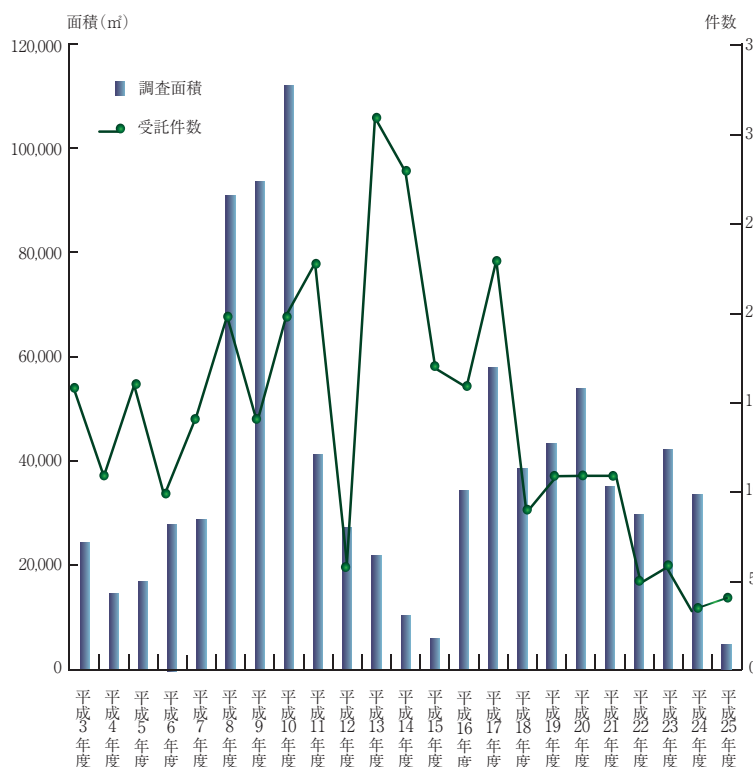


図5 受託発掘調査事業推移グラフ

表4 発掘調査推移表

年度	受託件数	受託面積
平成3年度	16件	25,910㎡
平成4年度	11件	14,663㎡
平成5年度	16件	17,010㎡
平成6年度	10件	28,233㎡
平成7年度	14件	28,856㎡
平成8年度	20件	90,546㎡
平成9年度	14件	93,675㎡
平成10年度	20件	111,902㎡
平成11年度	23件	41,320㎡
平成12年度	6件	27,314㎡
平成13年度	31件	21,853㎡
平成14年度	28件	10,488㎡
平成15年度	17件	6,052㎡
平成16年度	16件	34,285㎡
平成17年度	23件	58,084㎡
平成18年度	9件	38,119㎡
平成19年度	11件	41,662㎡
平成20年度	11件	53,792㎡
平成21年度	11件	34,500㎡
平成22年度	5件	29,831㎡
平成23年度	6件	42,508㎡
平成24年度	3件	34,498㎡
平成25年度	4件	4,554㎡
合計	325件	889,655㎡

1. 発掘調査事業

があり、高知南国道路では調査対象となった高知南IC（仮称）から高知空港IC（仮称）までの区間で、南国市田村北遺跡の発掘調査が最後となる。整理期間は平成26年度末までを予定している。

南国安芸道路では当面の発掘調査が終了し、平成27年度までの期間で東野土居遺跡などの整理作業を実施する予定である。今後、香南のいちIC（仮称）から高知空港IC間の3.5 kmが残っているが、試掘・確認調査はまだ実施されておらず、発掘調査については未定である。一方、高知西バイパスは、いの町枝川IC（仮称）から鎌田IC（仮称）間が調査対象で、平成24年度に実施した天神溝田遺跡と奥名遺跡の調査で当面の発掘調査を終了した。平成25年度からは、バーガ森北斜面遺跡などの整理作業を実施し平成27年度まで行う予定である。

表5 平成25年度受託発掘調査事業(本発掘調査遺跡)一覧

No.	遺跡名	遺跡略号	所在地	時代	種別	調査面積	調査期間	事業者	原因	委託者
1	田村北遺跡	13-1NTK	南国市田村	弥生 ～ 近世	集落跡	650㎡	4/1 ～ 6/30	国交省	道路	県教委
2	追手筋遺跡	13-2KO	高知市追手筋	中世 ～ 近世	屋敷跡	3,600㎡	8/5 ～ H26.2/6	高知県	図書館 建設	県教委
3	高知城跡	13-3KK 13-4KK	高知市丸ノ内	近世	城跡	304㎡	9/9～ 10/10 H26.2/18 ～3/7	高知県	石垣 改修	県教委
合 計						4,554㎡				

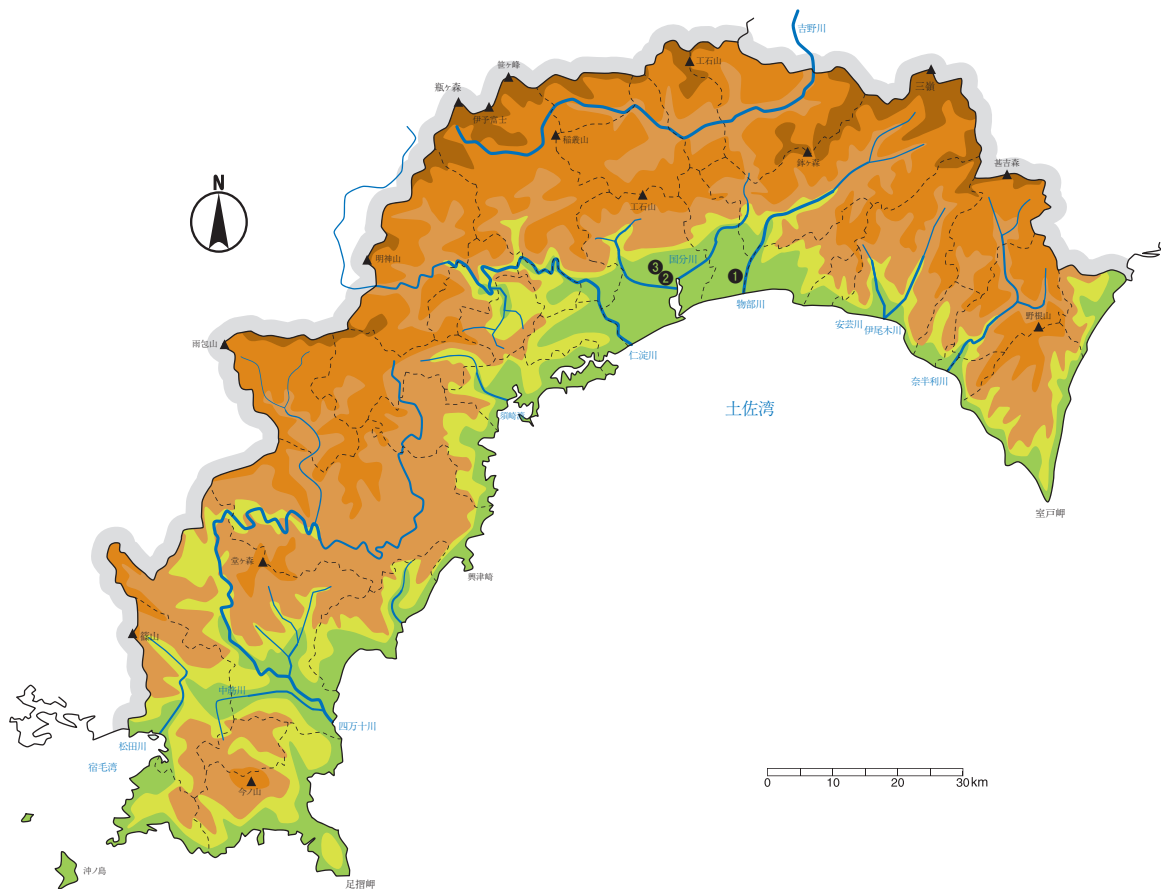


図6 平成25年度受託事業発掘調査位置図(番号は受託発掘調査事業(本発掘調査遺跡)一覧表の番号と一致)

県関係では、新資料館建設関係と新図書館関係の2件があった。新資料館建設関係は文化生活部の事業で、弘人屋敷跡の発掘調査事業を平成23年度から平成25年度までの3カ年で受託しており、平成25年度に整理作業を実施し報告書を刊行して整理作業を終了した。

新図書館建設関係では、教育委員会の事業で、追手筋遺跡の発掘調査を実施した。

埋蔵文化財センターの体制(図2, 表3)は、前年度より5名減の正職員18名(嘱託職員と契約職員を含めると25名)であった。内訳は考古専門職員が13名(県派遣6名, 財団職員5名, 嘱託職員2名), 県派遣の事務職員が3名, 派遣教員が4名, 財団契約職員(事務補助)が5名である。組織構成は変わらず所長, 次長の下に総務課と調査課を置き, 総務課は総務課長1名, 主任1名, 契約職員2名, 調査課は調査課長の企画調整班長の兼務を解き, 普及教育事業等を行う企画調整班長を置き, 発掘調査事業を行う調査第一班から調査第三班を配置した。調査課の人員内訳は調査課長1名, 企画調整班長1名, 調査班長3名, 調査員11名(専門調査員3名, 主任調査員5名, 調査員3名), 契約職員3名であり, この内実質的に発掘調査・整理作業を担当するのは考古専門職員10名, 派遣教員1名である。

調査課の業務分担は, 企画調整班が物品・遺物(県有物)等の貸出やホームページとWeb公開データベースの管理などの情報公開, 企画展等事業, 公開講座等事業, 出前考古学教室など指定管理に関わる普及教育業務, 調査第一班が南国安芸道路関係・県関係(教育委員会図書館整備課・文化生活部), 調査第二班が高知南国道路関係, 調査第三班が高知西バイパス・県関係(教育委員会文化財課)に関する事業であった。

(1) 受託事業

平成25年度の受託事業件数は4件⁽¹⁾で, 発掘調査と整理作業の両方が3件⁽²⁾, 整理作業のみが1件⁽³⁾

表6 平成25年度受託発掘調査事業(整理作業/報告書刊行分)一覧

No.	遺跡名	遺跡略号	所在地	時代	種別	整理期間	事業者	原因	委託者
1	田村遺跡群 (田村北遺跡)	11-3NTK 12-1NTK 13-1NTK	南国市田村	縄文 ～ 近代	集落跡	H24.4.6 ～ H25.3.31	国交省	道路	県教委
2	関遺跡	08-1NS 09-2NS 10-2NS	南国市大桶	弥生 ～ 近世	集落跡	H24.4.6 ～ H25.3.31	国交省	道路	県教委
3	徳王子広本遺跡	11-2KH	香南市香我美町徳王子	弥生 ～ 近代	集落跡	H24.4.6 ～ H25.3.31	国交省	道路	県教委
4	東野土居遺跡	10-1KH 11-1KH	香南市野市町東野土居	古代 ・ 中世	集落跡	H24.4.6 ～ H25.3.31	国交省	道路	県教委
5	天神溝田遺跡	11-7ITM 12-2ITM	吾川郡いの町天神	古代 ・ 中世	集落跡	H24.4.6 ～ H25.3.31	国交省	道路	県教委
6	バーガ森北斜面 遺跡	11-5IB	吾川郡いの町バーガ森	中世 ・ 近世	城館跡	H24.4.6 ～ H25.3.31	国交省	道路	県教委
7	西浦遺跡	11-4IN	吾川郡いの町西浦	古代 ・ 近世	集落跡	H24.4.6 ～ H25.3.31	国交省	道路	県教委
8	奥名遺跡	12-3IO	吾川郡いの町奥名	古代 ～ 近世	集落跡	H24.4.1 ～ H25.3.31	国交省	道路	県教委
9	弘人屋敷跡	12-4KY	高知市追手筋	中世 ・ 近世	屋敷跡	H24.4.1 ～ H25.3.31	高知県	建物	高知県

※ 田村北遺跡は調査後, 田村遺跡群に名称変更された。

1. 発掘調査事業

であった。これを遺跡数で見ると、発掘調査が3遺跡⁽⁴⁾、整理作業が9遺跡⁽⁵⁾(内報告書を刊行した遺跡は5遺跡⁽⁶⁾)の12遺跡となる。

調査面積は前述のとおり昨年度より29,944㎡少なく、対前年度比は約87%の減少となった。田村北遺跡の発掘調査面積は未買収の残地で650㎡と狭く、追手筋遺跡が3,600㎡の面積であったものの、全体的に発掘調査件数の減少が調査面積の減少に影響している。

委託元は高知県教育委員会と高知県であり、高知県教育委員会からの受託事業には国関係の再委託1件と高知城追手門石垣整備に係る発掘調査1件、高知県からの受託事業には県教育委員会図書館整備課の新図書館建設に伴う追手筋遺跡の発掘調査1件と文化生活部の新資料館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査業務委託の整理作業1件の計2件があった。

次に、各事業について具体的にみってみる。まず、高知県教育委員会から受託した国関係の内、高知南国道路外として契約し、平成16年度から継続されている東部自動車道建設(高知南国道路と南国安芸道路)と平成19年度から着手した高知西バイパスに伴う発掘調査・整理作業がある。高知南国道路では、田村北遺跡の発掘調査を行うと共に関遺跡等の報告書作成を中心とした整理作業を行った。田村北遺跡については、一部用地の関係で平成25年度に650㎡の調査を残していた箇所について、発掘調査を実施した。南国安芸道路では当面の工事区間である香南のいちICから芸西IC間の発掘調査が終了し、整理作業に移った。東野土居遺跡を中心に整理作業を実施し、徳王寺広本遺跡と東野土居遺跡Ⅰと高知南国道路分の関遺跡の報告書を刊行した。今後、平成26年度に東野土居

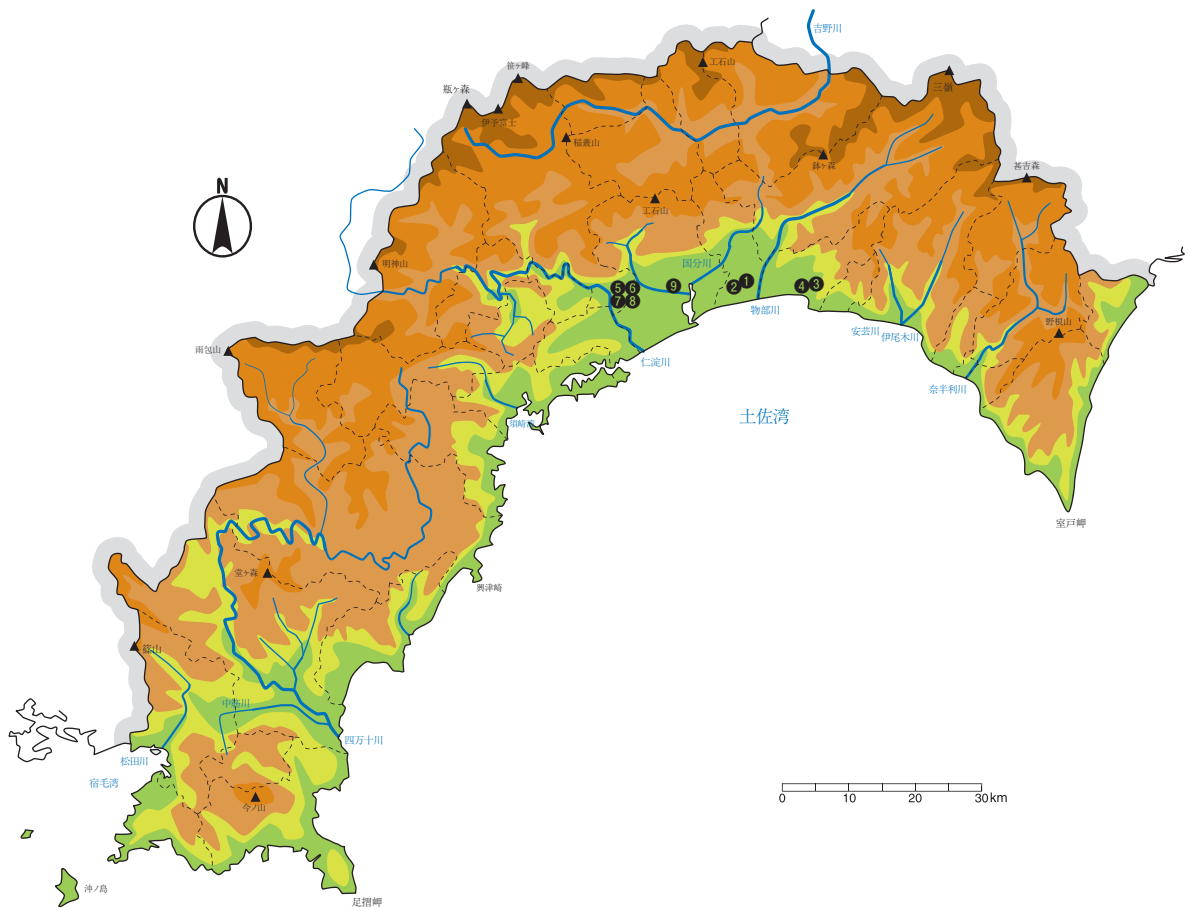


図7 平成25年度受託事業整理作業位置図(番号は受託発掘調査事業(整理作業/報告書刊行分)一覧表の番号と一致)

遺跡Ⅱ，平成27年度に東野土居遺跡Ⅲ・Ⅳの報告書を刊行予定である。

高知西バイパスでは天神溝田遺跡Ⅱの報告書を刊行した。今後，平成26年度にバーガ森北斜面遺跡，平成27年度に西浦遺跡と奥名遺跡の報告書を刊行予定である。

県関係では，文化生活部関係の弘人屋敷跡の発掘調査の整理作業に移り，平成25年度に報告書を刊行して終了した。

以上，平成25年度の受託事業の概要を記したが，発掘調査では田村北遺跡と追手筋遺跡，整理作業では東野土居遺跡，弘人屋敷跡が中心となった。刊行した報告書及び年報については平成25年11月に関係機関に発送した。

(2) 発掘調査報告書

平成25年度は5冊(第136～140集)の報告書を刊行した。内訳は国関係が4冊，県関係が1冊であった。印刷冊数はいずれも300冊で，印刷経費は昨年度より約200万ほど多い5,537,700円であった。

事業別に見てみると，国関係では高知南国道路の『関遺跡』，南国安芸道路の『徳王寺広本遺跡』，『東野土居遺跡Ⅰ』，高知西バイパスの『天神溝田遺跡Ⅱ』の4冊である。関遺跡は田村遺跡群の北西に位置し，弥生時代から近世までの遺構・遺物を検出している。弥生時代の遺構は少ないが，古代では比較的大きな溝を検出しており，古代の香長条理と同じ方向であることから条理制施行時期を検討する上で重要な資料を提供している。近世では，屋敷跡を検出しており近世段階に現景観の原型となる集落が形成されたものと考えられる。徳王寺広本遺跡は香宗川左岸に広がる低湿地に向け北方から派生した丘陵上に立地しており，中世の掘立柱建物跡を11棟検出しており，そのうち8棟が同時期の建物であり当該期の屋敷配置を考える上で良好な資料を提供できた。東野土居遺跡Ⅰでは，近世の集落跡を検出している。また僅かながら有舌尖頭器や太型蛤刃石斧が出土していることから，遺跡の成立は縄文時代草創期や弥生時代に求めることができる。遺跡の中心となる時期は18世紀

表7 平成25年度埋蔵文化財センター刊行報告書一覧

シリーズ名	書名	遺跡所在地	編集・執筆者
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第136集	徳王寺広本遺跡 南国安芸道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅵ (高知東部自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅺ)	香南市野市町徳王寺	下村裕，井上昌紀，小川博敏，バリノ・サーヴェイ株式会社
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第137集	東野土居遺跡Ⅰ 南国安芸道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅶ (高知東部自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅻ)	香南市野市町東野土居	出原恵三，久家隆芳，菊池直樹，山崎孝盛，下村裕，バリノ・サーヴェイ株式会社
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第138集	関遺跡 高知南国道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅵ (高知東部自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅼ)	南国市大桶乙	下村裕，島内洋二，久家隆芳，バリノ・サーヴェイ株式会社
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第139集	天神溝田遺跡Ⅱ 高知西バイパス建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅱ	吾川郡いの町天神	吉成承三，バリノ・サーヴェイ株式会社，大阪文化財研究所
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第140集	弘人屋敷跡 新資料館整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	高知市追手筋	宮里修，バリノ・サーヴェイ株式会社，植月学，清家章

1. 発掘調査事業

頃と考えられ、中世や近世初頭の遺構が認められないことから、検出した遺構群は現在に続く集落の初現と考えられる。天神溝田遺跡は、仁淀川支流の宇治川河口付近に位置しており、丘陵裾の低地に立地する。平安時代から江戸時代にかけての遺構や遺物が出土している。古代では、畿内系の黒色土器や緑釉陶器、中世では貿易陶磁器の青磁や白磁などがみられ、仁淀川の川津的な性格を持った遺跡の一面を示している。さらに9世紀後半から10世紀の鍛冶関連に関する遺構と遺物も町内で初めて確認されている。中世では屋敷境に位置する地点から備前焼壺の中に土師質土器と古銭を納めた後に和鏡で蓋をして埋納された遺構も検出されている。

次に県関係では新資料館整備事業に伴う調査成果をまとめた『弘人屋敷跡』を刊行した。弘人屋敷跡は、遺跡名の由来である土佐藩家老深尾弘人蕃頭の屋敷として調査したが、調査地点は弘人屋敷の隣接した区域である。調査では、古代の遺構が検出されており、中世前半では地鎮坑や井戸、墓などが営まれ、中世後半には現在の街区に沿うように区画溝が検出されており、江戸期には屋敷地に関連する遺構を検出している。

以上が、平成25年度に刊行した報告書の概要である。発掘調査を優先していた遺跡については平成26年度以降も順次報告書を刊行していく計画であり、調査中の遺跡も含め平成27年度末までにはすべての報告書を刊行する予定となっている。

註

(1) 国関係事業については国土交通省四国地方整備局と県教育委員会との委託契約を受けて、県教育委員会と委託契約を行っている。平成25年度国関係で契約したのは土佐国道事務所関係の1件で、高知南国道路外として高知南国道路(田村北遺跡の発掘調査、関遺跡・田村北遺跡の整理作業)、南国安芸道路(東野土居遺跡・徳王子広本遺跡の整理作業)、高知西バイパス(天神溝田遺跡・バーガ森北斜面遺跡・西浦遺跡・奥名遺跡の整理作業)の発掘調査と整理作業があった。

県関係は、県教育委員会から新図書館等複合施設建設に伴う追手筋遺跡の発掘調査と高知城石垣整備事業に伴うの追手門石垣解体調査と新資料館建設に伴う弘人屋敷跡の整理作業(文化生活部)の3件となり、平成25年度に発掘調査関係で受託件数の合計は4件であった。

- (2) 高知南国道路外埋蔵文化財発掘調査事業、新図書館等複合施設建設事業、高知城石垣整備事業の3件
- (3) 新資料館建設の弘人屋敷跡整理作業の1件
- (4) 南国市田村北遺跡、高知市追手筋遺跡、高知市高知城跡追手門の3遺跡
- (5) 南国市関遺跡、田村遺跡群、香南市東野土居遺跡、徳王子広本遺跡、天神溝田遺跡、いの町バーガ森北斜面遺跡、西浦遺跡、奥名遺跡、高知市弘人屋敷跡の9遺跡
- (6) 南国市関遺跡、徳王寺広本遺跡、東野土居遺跡Ⅰ、天神溝田遺跡Ⅱ、弘人屋敷跡の5遺跡

2. 指定管理事業

平成25年度は、高知県教育委員会から高知県立埋蔵文化財センターの管理運営代行業務を行う指定管理者として指定された平成25年4月1日から平成30年3月31日までの5年間の初年度であった。年間4回の展示会、82回の公開講座(展示会に伴うものを含む)、79校(87回)の出前考古学教室、ホームページやWeb公開データベース等での情報公開など普及教育事業に取り組んだ。

埋蔵文化財センターの入館者は、展示・施設見学者と公開講座の参加者が中心で、年間10件程度の出土文化財等の調査のための来館者や体験学習に訪れる小中学生もみられた。平成25年度の入館者総数は3,205人で、過年度の増加率と平成24年度の入館者総数2,854人を基に設定した平成25年度の入館者数目標3,100人を達成することができた。対前年度比は12%の増加となった。目標を達成できた要因の一つは、親子考古学教室の参加者が前年度938人から1,132人になり194人増加した事と判断される。なお、親子考古学教室の入館者に占める比率は入館者数の35%である。(図8)。

今後、埋蔵文化財センターへの入館者を増やしていくには、親子考古学教室については継続的に取り組み、公開展示、公開講座の参加者を確保した上で、小中学校の団体見学を招致することが大きな鍵を握っているものと思われる。出前考古学教室などを利用して施設を紹介すると共に埋蔵文化財センターに在籍したことのある教員等に呼びかけを行って行かなければならない。

展示会では、会期中に親子考古学教室が開催される巡回展は、



写真1 年間行事カレンダー

表8 入館者推移表と平成25年度の入館者数

年度	合計	内訳(人数)								入館者内訳		
		常設展	巡回展	企画展	企画展1	企画展2	特別展	速報展	その他	子供	大人	展示報告・解説
H13年度	811	811	-	-	-	-	-	-	-	487	324	-
H14年度	821	177	-	644	-	-	-	-	-	493	328	-
H15年度	1,171	468	-	703	-	-	-	-	-	703	468	20
H16年度	1,523	402	802	319	-	-	-	-	-	913	610	-
H17年度	1,318	431	542	345	-	-	-	-	-	787	531	17
H18年度	1,555	504	449	-	-	-	-	482	120	582	973	47
H19年度	2,182	392	809	501	-	-	333	-	147	348	1,834	87
H20年度	2,561	-	1,224	-	451	328	253	-	305	740	1,821	147
H21年度	2,866	-	1,417	-	508	388	363	-	190	905	1,961	170
H22年度	2,816	-	1,558	-	347	331	383	-	197	1,019	1,797	104
H23年度	3,058	-	1,521	-	490	466	369	-	212	1,035	2,023	147
H24年度	2,854	-	1,247	-	557	595	338	-	117	1,074	1,780	110
H25年度	3,205	-	1,431	-	625	415	621	-	113	1,342	1,863	208
合計	26,741	3,185	11,000	2,512	2,978	2,523	2,584	482	1,401	10,428	16,313	1,057
平均	2,228	455	1,063	502	596	505	431	482	234	869	2,330	106

2. 指定管理事業

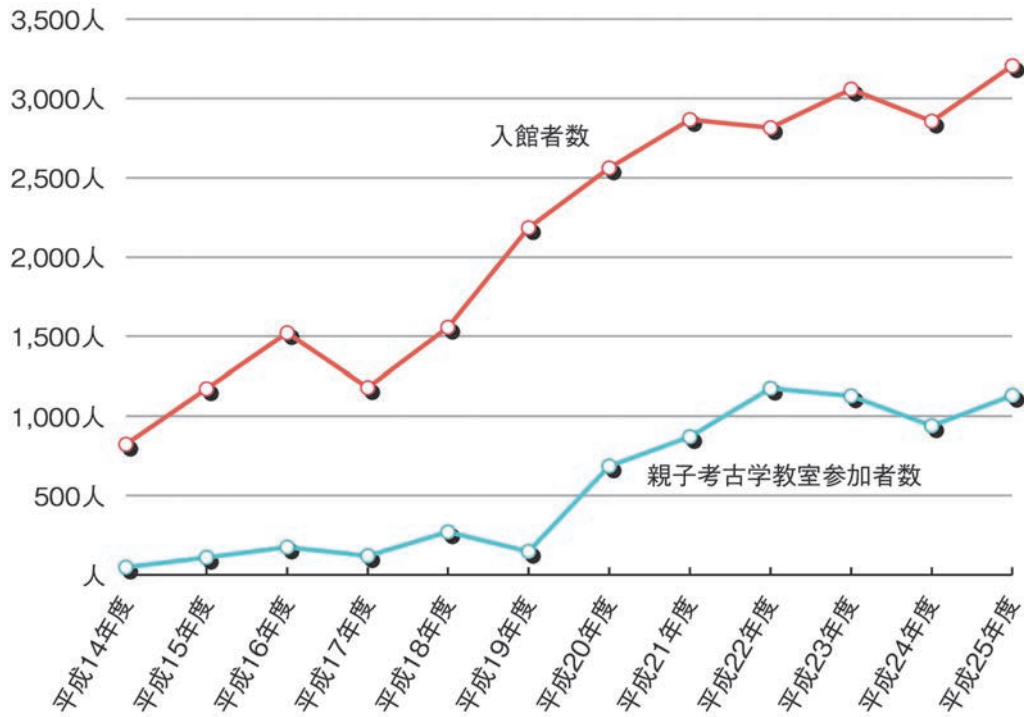


図8 入館者に占める親子考古学教室参加者の割合

土日も開館していることから、他の展示会の2～4倍の入館者となった。また、企画展1と特別展は前年度より増加しており、この期間に団体見学が比較的多かったことも関係していると思われる。

今後、入館者数を恒常的に増やしていくには、分かりやすい展示を心掛けることと前述のように小学校など団体見学の招致が重要なポイントとなってくると考える。

次に、月別の入館者数をみると、例年どおり夏休み期間で親子考古学教室が開催される7・8月が圧倒的に多く(7月477人, 8月895人)、共に月平均より約270人ほど大きく上回っている。一方、企画展示がない期間が含まれる4月(38人), 9月(101人), 12月(91人), 3月(144人)に入館者数が大きく落ち込む傾向があり、今後さらに入館者を伸ばし広報普及を推進していくためには、本館ロビーの常設展示スペースとしての活用・改善や資料コーナーの設置、キッズスペースのさらなる充実などが検討課題としてあげられる。また、県外からの入館者数は126人で、入館者総数の約4%にあたり、昨年度より55人多かった。増加した要因としては、県外からの団体見学が2件あったことや田村遺跡群などが全国紙の記事に載る話題を提供するができたこと、観光パンフレットや報道機関などを通じた広報活動が功を奏したことなどがあげられる。

前述のとおり、親子考古学教室の一定回数の開催と団体見学の招致が入館者の増加に直結しているが、それ以外にボランティアなどの支援者の確

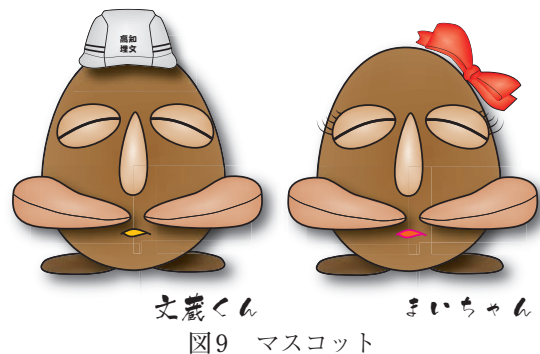


図9 マスコット

保も重要であろう。支援者を増やすことでよりニーズにあった講座も見出せると考える。さらに、文化庁の補助金を利用した体験学習器具等の配備と講座の充実が参加者の増員に繋がるものと思われ、今後県にも積極的に働きかけたい。

(1) 公開展示

埋蔵文化財センターの展示室を会場として、発掘調査の成果の公開活用のため昨年度と同じく年間を通じて4回の展示会を行った。入館者は結果的に昨年度(2,854人)より351人多い3,205人で、対前年度比は12%増となり、当初の入館者目標である3,100人を達成することができた。

各展示会ではきめ細かい展示サービスを心がけ、展示室入口前に展示解説の案内板を設け、希望者には随時展示解説を行った。

また、平成25年度も昨年度に引き続いてテレビ高知から「じゃらん²モーニング」の「30秒で伝えタイム」の出演依頼を頂き、8月31日(土)に企画展2、2月8日(土)には特別展の広報をテレビを通じて行うことができた。

各展示会については、以下のとおりである。

① 企画展1

「考古資料からみた高知県の歴史」と題した企画展で、旧石器時代から江戸時代までの遺物を展示することで、高知県の歴史を概観できるように心掛け、展示解説シートを作成した。会期は4月17日～6月22日までの51日間(休館日の土・日曜日、祝祭日は除く、ただし、公開講座等の開催日は開館)で、5月11日(土)には「企画展1」報告会、6月8日(土)には展示品解説を開催し、報告会には19人、展示品解説には15人の参加者があった。入館者数は625人で、68人増の対前年度比は12%増であった。



写真2 企画展1ポスター



写真3 巡回展ポスター

② 四国地区埋蔵文化財センター巡回展第5回「続・発掘へんろ」

四国四県の埋蔵文化財センターの共同の巡回展で、平成21年度から6カ年計画で「続・発掘へんろ」を開催しており、本年度が第5回目となる。本年度は「四国の中世」をテーマに、四国の遺跡から出土した出土品を「城館」、「流通」、「生産」、「墓」、「祈り」、「生活」の6つの部門に分けて展示した。会期は7月1日から9月8日、入館者は1,431人で昨年度より184人増え、対前年度比は約15%の増であった。親子考古学教室の参加者の増加(194人)が展示期間の入館者の増加にそのまま反映した形となっている。

2. 指定管理事業

③ 企画展2

企画展2では、本年度より「発掘調査で明らかになった遺跡展」というシリーズを実施することとし、本年度はその1回目として「発掘調査で明らかになった遺跡展1」ー上ノ村遺跡ーを9月24日から11月30日まで開催した。実際の展示では土佐市の上ノ村遺跡と近隣の北ノ丸遺跡を対象とし、縄文時代から近世にわたる遺跡や遺物から窺える人々の生活の暮らしぶりや他地域との交流の様子を広く紹介することができた。アンケート結果によれば新しい知識を得ることができた、展示内容が分かりやすいなど評判は比較的良かったが、会期中の入館者は415人で、昨年度に比べて180人減少し、対前年比は約30%の減となった。人数規模の大きい団体見学がなかったことが入館者減少の主立った要因ではあるが、一般(主に大人)向けの展示内容であるのに入館者の増減が学校団体の来館に左右される現状にあることや、報告会には遺跡の所在地である土佐市からの来館者があったが、遺跡周辺の地域住民や学校などへの具体的な来館への働きかけがまだまだ十分でないことなど、今後の課題が浮き彫りにされる内容となった。



写真4 企画展2ポスター

④ 特別展

本年度は12月16日から平成26年3月15日までの会期で、「奥谷南遺跡とその時代」と題した特別展を開催した。入館者は昨年度より283人多い621人で、対前年度比は約84%の増であった。

表9 公開講座参加者数

年度	合計	内訳					
		考古学講座	発掘調査 報告会	授業にいかせる 考古学教室	親子考古学教室	古代ものづくり 体験教室	遺跡見学会
平成13年度	-	-	-	-	-	-	-
平成14年度	48人	-	-	-	48人	-	-
平成15年度	109人	-	-	-	109人	-	-
平成16年度	175人	-	-	-	175人	-	-
平成17年度	120人	-	-	-	120人	-	-
平成18年度	431人(179)	136人(54)	-	-	270人(125)	-	25人
平成19年度	444人(409)	110人(75)	138人	9人	146人	35人	6人
平成20年度	1,122人(1,086)	83人(47)	173人	10人	686人	148人	22人
平成21年度	1,187人(1,117)	99人(29)	106人	6人	870人	89人	17人
平成22年度	1,499人(1,478)	80人(21)	137人	7人	1,177人	67人	31人
平成23年度	1,453人(1,431)	87人	99人	3人	1,129人(120)	124人	11人
平成24年度	1,276人	69人	78人	15人	938人(178)	157人	19人
平成25年度	1,436人	66人	101人	5人	1,132人	132人	
合計	9,199人	730人(226)	832人	50人	5,668人(423)	752人	131人
平均	836人	104人(38)	139人	8人	515人(141)	125人	19人

※考古学講座の()内人数は来館人数、()以外は館以外(四万十市と南国市)での参加人数を含む。25年度から発掘調査報告会は遺跡解説会、授業にいかせる考古学教室は先生のための考古学講座に名称変更。

の要因は団体見学があったことがあげられる。また、関連企画として、2月2日高知市文化プラザかるぽーと小ホールで広島大学総合博物館藤野次史教授を講師に「奥谷南遺跡とその時代」と題した記念講演会を開催し、78人の参加があったが昨年度比9人の減少となった。

(2) 公開講座等

講座(表9～13)として考古学講座4回、発掘調査報告会4回、古代ものづくり体験教室20回、親子考古学教室40回、授業にいかせる考古学教室1回、さらに各展示会に伴う展示報告会4回と展示品解説8回(午前・午後)に110人、そして、特別展記念講演会1回に87人の参加があり、合計82回の講座に1,685人の参加者があった。昨年度より185人多く(対前年度比約13%増)、一昨年度並みの人数に回復したが、内訳はやはり親子考古学教室の参加者数の増加がそのまま反映した結果となっている。

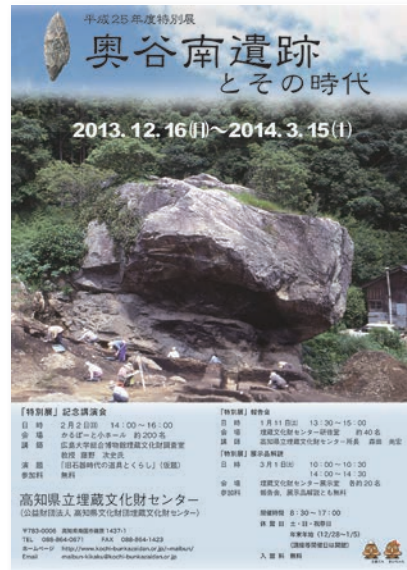


写真5 特別展ポスター

各講座の平均参加者数は、遺跡解説会が約25人(募集定員約40人)、考古学からわかる歴史教室が約17人(募集定員約40人)、親子考古学教室が約28人(募集定員約30人)、古代ものづくり体験教室が約13人(募集定員約20人と10人)、展示報告会約21人(募集定員約40人)、展示品解説約15人(募集定員約20人)であり、いずれの講座も平均参加者数が募集定員を満たすものはなかった。



写真6 特別展記念講演会

しかし、親子考古学教室や古代ものづくり体験教室は開催日によっては募集定員に達したこともあった。概して参加希望が多かった講座はいずれも体験型の講座であり、考古学の専門的要素の強い座学を中心とする講座は総体的

表10 平成25年度公開講座1

講座名	開催日	参加者	講座名	参加者	講座名	参加者		
企画展1(4月17日～6月22日)	: 開館51日		古代ものづくり体験教室		考古学講座			
「企画展1」報告会	5月11日(土)	19人	1	5月25日(土)	1	5月18日(土)	15人	
展示品解説	6月8日(土)	15人	2	6月22日(土)	2	7月13日(土)	19人	
巡回展(7月1日～9月8日)	: 開館70日		3	10月12日(土)	3	11月16日(土)	13人	
「巡回展」報告会	7月6日(土)	11人	4	11月9日(土)	4	1月25日(土)	19人	
展示品解説	8月3日(土)	10人	5	11月18日(月)	5	発掘調査報告会		
企画展2(9月24日～11月30日)	: 開館56日		6	12月7日(土)	6	1	6月15日(土)	24人
「企画展2」報告会	10月5日(土)	21人	7	1月18日(土)	7	2	9月7日(土)	33人
展示品解説	11月2日(土)	22人	8	1月20日(月)	8	3	10月19日(土)	23人
特別展(12月16日～3月15日)	: 開館63日		9	2月15日(土)	9	4	11月30日(土)	21人
「特別展」報告会	1月11日(土)	32人	10	3月15日(土)	10	授業にいかせる考古学教室		
記念講演会	2月2日(日)	78人	発掘現場見学会				8月5日(月)	5人
展示品解説	3月1日(土)	14人	—					

2. 指定管理事業

に参加者の伸び悩みがみられる。

次に、参加者の年齢・性別についてみると、これまで同様体験型の講座である古代ものづくり体験教室では、講座内容によって年齢層にやや異なる傾向が窺えるものの、30歳代以上の女性が大半を占めている。一方、考古学講座や発掘調査報告会など考古学の専門的要素の強い座学を中心とする講座では、概して男性の割合が高く、中心は50歳代から70歳代で、全体の半数は50・60歳代の方であった。

このように、体験型の講座では、本年度もやはり女性が中心でかつ比較的若い方の参加や家族連れでの参加も目立つようになってきた。よって、体験型の講座は女性の入館者数や支持層を増やすのに有効な事業であることが示唆された。座学を中心とする講座は、実年の男性の参加者が中心であり、考古学に興味を持ちつつ、より深く歴史を学びたい方ではあるが、講座内容も考古学の専門的な内容ばかりにとらわれず、歴史や現代社会の事象と絡めつつより一層興味を持って頂ける内容にしていくことが重要と思われる。また、調査員も専門分野の調査研究成果を発表し広めていける場と捉え、積極的に取り組む必要があると考える。



写真7 勾玉づくり

なお、1,132人の参加のあった親子考古学教室では大人が472人(昨年度比105人増)、子供(大半は小学生)が660人(昨年度比89人増)で、大人1人に対して子供平均1.4人の参加と、少子化の影響が激しいが、付き添う大人がいっしょに製作を楽しむ家族の姿や三世代で参加する姿も目立ち、参加者層の広がり強く感じられた。この親子考古学教室はチラシを配付して以来開催日によっては定員以上の応募がある最も人気の講座であるため開催回数を40回(30人/回)としているが、前述のような傾向からも、今後積極的にボランティアの協力を得ることが不可欠である。しかし、昨今の大学の夏休みの開始が8月上旬からとなったこともあり、ボランティアを集めることが難しくなっているが呼びかけをする大学機関を増やすなど、今後の検討が必要であろう。

高知県立埋蔵文化財センターが指定運営代行業務を行って以来、定期的な公開講座開催と共にその回数を毎年増やしている。(平成20年度：29回、平成21年度：29回、平成22年度：60回、平成23年度：79回、平成24年度：83回、平成25年度：82回)その結果、公開講座等への参加者は平成20年度に飛躍的に伸びたものの、平成22年度以降は伸び悩んでおり、さらに内容の吟味や広報の工夫など地道な努力を行っていくことが、考古学の底辺を広げるには不可欠なことと考える。

なお、事業案内を年間行事カレンダーやホームページ等

2013 道跡の館 夏休み企画
親子考古学教室
古代人の体験をしてみよう!
勾玉づくり・火起こし

開催場所 高知県立埋蔵文化財センター
開催日 7/24 木・25 木・30 木
8/1 木・2 金・4 土・7 木・8 木・10 土
8/11 日・12 月・17 土・24 土・25 日

埋蔵文化財センター以外の開催場所

室毛市会場	室毛市立室毛歴史館	7/20 土
西万十町会場	西万十町立中央公民館	7/21 日
西万十町会場	西万十町農村福祉改善センター	7/27 土
須崎市会場	須崎市立市民文化館	7/28 日
安芸市会場	安芸市内原野海楽館	7/31 木
室戸市会場	室戸市立西良川公民館	8/18 日

(各会場共通)
開催時刻 午前の部 9:30~12:00 午後の部 13:30~16:00
募集人数 各先着約30人(電話で事前申込みをお願いします)
材料費 1人100円(作った勾玉はお持ち帰りできます)
受付開始 平成23年7月1日午前9:00より
受付先 高知県立埋蔵文化財センター TEL 088-864-0671(代表)

夏休みの期間に自由研究にどうぞ

写真8 親子考古学教室2013

で行う一方、葉書で毎月開催案内を希望者に送付し、さらに報道機関への告知放送の依頼を行うなど周知を図った。近年の博物館等による公開講座等の増加によって、開催日が重なり、後日資料のみを求められるケースもみられた。

これ以外に高知県文化財団主催の県立ミュージアム出張ワークショップ@イオン高知に参加し、3月2日に出土遺物展示・センター業務紹介(パネル・ビデオ上映)・どきどき土器パズル・遺跡クイズラリーといった内容のイベントを松山考古館の協力



写真9 土器づくり

も得て開催した。当日は家族連れや子どもたちを中心に300人を超える来場者があり、企画内容も大変好評で、今後の開催を継続してゆく必要性を感じた。

① 考古学講座

平成25年度は、より多くの方が参加しやすいような講座として派遣教員による「考古学からわかる歴史教室」と銘打った入門講座を4回開催した。本年度は館外では行わず埋蔵文化財センターでのみ実施した。

表11 平成25年度考古学講座(考古学からわかる歴史教室)

開催日	講座内容	担当者
第1回(平成25年5月18日)	旧石器時代	藤野明弘
第2回(平成25年7月13日)	縄文時代	坂本裕一
第3回(平成25年11月16日)	弥生時代	茂松清志
第4回(平成26年1月25日)	古墳時代	池澤俊幸

参加総数は66人で前年度より3人減少し対前年度比は約4%減であった。全ての講座において参加者が20人を下回っているが、内容についてはアンケートでは分かりやすかったと好評なものも多く、今後、広報の方法を検討する

必要があると考えられる。次年度は本年度から引き続いて古代以降近世までの3講座と夏休み前に主に小学生とその保護者を対象とした「自由研究の方法」の計4講座を予定している。

表12 平成25年度公開講座2(親子考古学教室)

※は館外で実施

開催日	午前の部		午後の部		計	開催日	午前の部		午後の部		計
	大人	子供	大人	子供			大人	子供	大人	子供	
※7月20日(土)	1人	2人	3人	4人	10人	8月7日(水)	16人	25人	10人	15人	66人
※7月21日(日)	12人	20人	7人	15人	54人	8月8日(木)	16人	24人	6人	7人	53人
7月24日(水)	16人	17人	16人	20人	69人	8月10日(土)	12人	16人	12人	16人	56人
7月25日(木)	15人	19人	16人	20人	70人	8月11日(日)	10人	16人	19人	22人	67人
※7月27日(土)	11人	16人	7人	9人	43人	8月12日(月)	14人	23人	14人	22人	73人
※7月28日(日)	15人	20人	6人	10人	51人	8月17日(土)	16人	22人	13人	18人	69人
※7月30日(火)	16人	21人	14人	21人	72人	※8月18日(日)	9人	12人	3人	3人	27人
※7月31日(水)	12人	15人	6人	9人	42人	8月24日(土)	15人	19人	14人	20人	68人
8月1日(木)	14人	21人	16人	23人	74人	8月25日(日)	9人	10人	9人	18人	46人
8月2日(金)	16人	27人	5人	8人	56人	小計	117人	167人	100人	141人	525人
8月4日(日)	14人	15人	17人	20人	66人						
小計	142人	193人	113人	159人	607人	合計	259人	360人	213人	300人	1,132人

2. 指定管理事業

② 遺跡解説会

埋蔵文化財センターが実施した近年発掘調査がおこなわれ、報告書が刊行された遺跡(表13)を取り上げ、プロジェクターを使用して平易に解説すると共に出土遺物も実見してもらい、遺跡についての理解をより一層深めて頂いた。午後1時30分から3時までの90分の講座で、年4回、埋蔵文化財センターで開催した。参加総数は101人で、23人増加し、対前年度比は29%増であった。

表13 平成25年度遺跡解説会

開催日	講座内容	担当者
第1回(平成25年6月15日)	弘人屋敷跡	宮里 修
第2回(平成25年9月7日)	田村北遺跡	池澤俊幸
第3回(平成25年10月19日)	奥名遺跡	吉成承三
第4回(平成25年11月30日)	東野土居遺跡	久家隆芳

平成26年度も引き続き遺跡解説会として講座を実施する予定である。

③ 親子考古学教室

公開講座の中で最も人気のある講座で、「勾玉づくり」と「火起こし」をセットにした親子による体験型講座である。県内の小学生全員に「掘りゆうぜよ高知 遺跡の館 夏休み企画」と銘打ったチラシを夏休み前に配付し、周知を図った。本年度は埋蔵文化財センター以外でも四万十市・宿毛市・安芸市のほか四万十町・須崎市・室戸市を加えて6ヶ所12回開催し、センター開催と合わせて合計40回開催した。

参加人員は1,132人(内訳大人472人、子供660人)で対前年度比は21%増となり、募集定員は昨年度と同じ1,200人であり充足率は94%であった。また、開催日によっては定員により、希望日の変更をお願いしなければならない日もあった。公開講座中では参加者が最も多い講座である。

また、平成25年度に初めてマスコットや土器の缶バッジを制作し、参加した児童の希望者に配布して、マスコット及び埋蔵文化財センターの周知を図った。

④ 授業にいかせる考古学教室

学校現場の先生に考古学に関心を持って頂き、埋蔵文化財センターとの連携を深めるため企画した講座で、夏休み期間を利用して1回(8月5日(月))実施した。内容は考古学概説や整理作業見学、火起こし、勾玉づくり体験で参加者には非常に好評であった。本年度の参加者数は5人と前年から10人減であった。昨年度のように教員の社会科研究会の参加がなかったことが減少の要因であるが、義務教育の教員の参加が少なく義務教育の教員の社会科研究会等への働きかけや周知が必要と考えられる。

表14 平成25年度Web公開した報告書等

掲載物	種類	掲載形式	データ量	分割数	発行年月日
年報22号(平成24年度実績)	年報	PDF	4.8MB	-	2013. 9. 20
巡回展第5回「続・発掘へんろ」	パンフレット	PDF	3.7MB	-	2013. 6. 28
企画展2	パンフレット	PDF	3.8MB	-	2013. 9. 20
特別展	パンフレット	PDF	2.0MB	-	2013.12.11
徳王寺広本遺跡	発掘調査報告書	PDF	29.1MB	3分割	2014. 3. 20
東野土居遺跡 I	発掘調査報告書	PDF	51.6MB	5分割	2014. 3. 20
関遺跡	発掘調査報告書	PDF	19.1MB	2分割	2014. 3. 20
天神溝田遺跡 II	発掘調査報告書	PDF	40.4MB	4分割	2014. 3. 20
弘人屋敷跡	発掘調査報告書	PDF	68.5MB	7分割	2014. 3. 28

⑤ 古代ものづくり体験教室

親子考古学教室に次いで人気がある講座で、「勾玉づくり」・「ガラス玉づくり」・「銅鏡づくり」・「土器づくり」の4つのメニューで、年間で20回行っており、本年度から、参加者に材料費として「勾玉づくり」が100円、それ以外が300円を徴収することになった。参加総数は132人で、前年度から25人減で対前年度比は約16%の減であった。

⑥ 発掘現場見学会

埋蔵文化財センターが実施している発掘調査中の現場を調査員が案内し、遺跡の概要を解説する

表15 平成25年度物品・遺物(県有物)貸出一覧

番号	貸出先	貸出遺物	貸出期間	目的
1	高知県立歴史民俗資料館	奥谷南遺跡出土遺物他 計372点	H25.4.1～ H26.3.31	常設展で展示
2	愛知県陶磁資料館	田村遺跡群出土能茶山焼3点, 能茶山焼窯出土能茶山焼17点 計20点	H25.4.1～ H26.3.31	常設展常設展「猿投・全国古窯陶磁資料展」で展示
3	高知大学人文学部教授清家章	田村遺跡群, 古津賀遺跡, 具同中山遺跡群, 比江廃寺跡出土遺物 19点	H25.4.1～ H26.3.31	高知大学考古学実習で使用
4	牟岐町教育委員会 佐藤俊祐	西山城跡出土備前焼 54点	H25.4.16	牟岐町出土遺物との比較研究
5	佐川町立 黒岩中学校	学校貸出セット1(遺物11点), 弥生人足形レプリカ1点 計12点	H25.5.17～7.1	歴史授業で使用
6	愛媛県埋蔵文化財センター中野良一	田村遺跡群 縄文時代後期土器 414点	H25.6.26～6.28	土器の胎土観察と一部写真撮影
7	山口県埋蔵文化財センター	田村遺跡・八田神母谷遺跡・居徳遺跡・上ノ村遺跡出土 縄文時代晩期～弥生時代前期土器 260点	H25.8.1～8.2	研究論文作成のための実見・観察
8	徳島県埋蔵文化財センター菅原康夫	西分増井遺跡出土勾玉 5点	H25.8.12	個人研究のための熟覧・写真撮影
9	徳島市立 考古資料館	田村遺跡群出土管玉・勾玉, 栄エ田遺跡出土雲母製小玉, 具同中山遺跡群出土勾玉・白玉他 90点	H25.10.2～12.10	開館15周年記念特別企画展「装身具の世界～玉文化に魅せられて」での展示
10	高知県立 歴史民俗資料館	天神溝田遺跡出土遺物, 西山城跡出土遺物他 420点	H25.10.8～12.26	特別展「備前焼」での展示
11	首都大学 東京大学院生 遠藤英子	田村遺跡群出土土器 562点	H25.10.15～17	種実由来と推定される圧痕からのシリコン樹脂を用いたレプリカの採取
12	高知市立 西部中学校	学校貸出セット1(遺物11点), 弥生人足形レプリカ1点 計12点	H25.10.17～ 11.14	歴史授業で使用
13	高知大学人文学部 人間文化学科 平尾英希	大谷古墳出土鉄釘 4点	H25.10.28	卒業論文作成のための観察・実測
14	岡山理科大学大院 渡邊亮介	奥谷南遺跡出土ナイフ形石器, 細石刃他 計84点	H25.11.13～15	修士論文の参考資料にするための実見調査
15	愛媛大学法文学部 文学科斧香菜子	西分増井遺跡出土青銅鏡片2点	H25.11.19	卒業論文執筆のための実見による熟覧, 実測及び写真撮影
16	愛媛大学法文学部 文学科斧香菜子	田村遺跡出土青銅鏡片1点, 馬場末遺跡出土青銅鏡1点	H25.12.24・25	卒業論文執筆のための実見による熟覧, 実測及び写真撮影
17	岡山県立博物館	古津賀遺跡出土遺物 17点	H25.12.1月上旬～ H26.2.12月下旬	平成25年度岡山・高知文化交流事業「土佐の水とくらしー四万十川の漁を中心にー」に出品展示
18	いの町立 伊野中学校	学校貸出セット1(遺物11点)	H26.1.16～23	歴史授業で使用
19	札幌学院大学学長 鶴丸俊明	奥谷南遺跡出土土器 332点	H26.2.21～22	資料調査のための実見・実測・観測
20	大阪大学大学院 竹内裕貴	小籠遺跡出土土器115点, 西分増井遺跡出土土器77点 計192点	H26.2.26～28	修士論文作成のための実見・観察・写真撮影・図面作成

2. 指定管理事業

もので、当センター主催の見学会としては本年度は実施されなかったが、団体見学申し込みによる遺跡見学は23件あり、高知市中心街に位置し近世武家屋敷の池跡などで話題となった追手筋遺跡が21件1,077人と非常に多くの見学者があった。

(3) 情報公開等

埋蔵文化財及び発掘調査に関する情報公開事業として、インターネット上のホームページの管理更新を行った。埋蔵文化財の基礎情報としてこれまでの発掘調査報告及び展示パンフレット、広報用資料などをPDFにより電子データとして公開している。展示会パンフレットなど新たな出版物を随時追加更新しており、インターネットを介して、最新のデータを閲覧・ダウンロードすることができ、埋蔵文化財資料の公開活用を進めることができた。全国的にも利便性のあるコンテンツであると考えている。

また、埋蔵文化財センターの活動記録として平成24年度の業務実施内容をまとめた『年報第22号』を発刊した。

① ホームページ

平成19年度にリニューアルした後、同じテンプレートを使用して平成25年度版に更新すると共ににより見やすいように修正した。広報普及や発掘調査状況等は随時更新して、情報提供を行った。アクセス数は1日20～30件であった。

(公財)高知県埋蔵文化財センター URL : <http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~maibun/>

② Web公開データベース

平成25年度が平成16年度から始めたWeb公開データベースは報告書PDF等印刷物のみの公開となった。遺跡データベースは最終的には遺跡情報についてのみ高知県教育委員会に引き継がれ公開されることになった。一方、報告書PDFについては高知県文化財団のホームページと同じサイトでの公開が承認されユーザーに分かりやすいサイト構成を心がけている。

なお、報告書PDFは名前のとおり、PDF化した報告書等のデータを掲載しているもので、高知県埋蔵文化財センターが刊行した報告書、年報や現地説明会資料を一般公開している。いずれも、随時更新しており、平成25年度は刊行された報告書と年報第22号及び展示会のパンフレットなどを新たに掲載した。

③ 物品(県有物)等の貸出と資料管理

出土文化財、図書等の資料管理については、高知県立埋蔵文化財センター資料管理要領に則り、迅速かつ適切に管理と貸出を行い、交換図書として寄贈された報告書等も随時登録している。

なお、収蔵庫で管理している出土文化財についてはデータベース化し、埋蔵文化財センターのインターネットで検索できるシステムとしている。

平成25年度の物品(県有物)等の貸出は20件(表15)で、うち他施設等への貸出は9件、残りの11件



写真10 現地説明会(追手筋遺跡)



写真11 ホームページ

は高知県立埋蔵文化財センター内での実見・実測であった。また、火起こし器セットなど物品の貸出は小中学校を中心に3件、写真掲載については出版社や報道機関などから9件の許可申請があった。

なお、主な貸出先は愛知県陶磁資料館、高知大学、高知県立歴史民俗資料館、県内の公立学校、徳島市立考古資料館、岡山県立博物館などであった。

④ 施設見学等の受入

学校や各種団体等からの見学依頼についても積極的に受け入れており、平成25年度は45件の団体見学(表16)の受け入れを行った。その内、施設見学22件837人で、現場見学23件1,094人であった。今年度は追手筋遺跡が地元マスコミに取り上げられたために見学者が多くなった。この事は、地域への働きかけによって見学者の増加が見込める事を示しており、地元小中学校など地域への積極的な働きかけが必要である。

施設見学では学校関係からの展示・施設見学、体験学習が16件659人であった。展示会会期中では企画展2が減少しているがこれは、昨年度同時期の団体の受け入れ数は同一であるが大規模校の受け入れがなかったため52人減少しており、この影響が大きいものと考えられる。やはり、学校関係の団体見学が入館者数に大きな影響を与えており、春や秋の遠足シーズンに向け学校への働きか

表16 平成25年度施設見学者一覧

No.	団体名	見学日	生徒等	引率者	総数	内容
1	高知市立介良潮見台小学校	H25.5.1	63	3	66	遺跡学習, 展示見学, 館内見学
②	土佐清水市郷土史同好会	H25.5.18	10	0	10	展示見学(+田村北遺跡見学)
3	南国市立大篠小学校3年1組・3組	H25.5.22	64	2	66	展示見学, 館内見学
4	南国市立大篠小学校3年2組・4組	H25.5.29	63	3	66	展示見学, 館内見学
5	高知市立泰小学校	H25.6.7	147	5	152	展示見学, 館内見学, 体験学習
6	いの町教育研究会中学社会科部会	H25.6.18	7	0	7	展示見学(+田村北遺跡見学)
7	南国市立国府小学校3年児童・PTA	H25.7.6	27	21	48	展示見学, 館内見学, 体験学習
8	南国市立国府小学校6年児童・PTA	H25.7.7	22	18	40	展示見学, 館内見学, 体験学習
⑨	旭文化センター	H25.7.9	38	0	38	展示見学
10	南国市立教育研究所	H25.7.26	17	5	22	遺跡学習, 体験学習
⑪	認定こども園潮幼稚園卒園児	H25.8.6	15	2	17	展示見学, 館内見学, 体験学習
12	中土佐町立久礼小学校	H25.10.4	31	3	34	遺跡学習, 体験学習
13	南国市立大湊小学校	H25.11.1	34	4	38	遺跡学習, 展示見学, 体験学習
14	高知県立高知東工業高等学校	H25.11.1	35	2	37	遺跡学習, 体験学習
15	田野町立田野小学校5年生	H26.1.20	17	2	19	遺跡学習, 展示見学, 体験学習
⑯	東広島市教育委員会	H26.1.23	8	0	8	事業説明, 展示見学, 館内見学
17	南国市立大篠小学校3年1組	H26.2.12	33	2	35	遺跡学習, 展示見学
18	南国市立大篠小学校3年3組	H26.2.12	33	2	35	遺跡学習, 展示見学
19	南国市立大篠小学校3年2組	H26.2.13	33	2	35	遺跡学習, 展示見学
20	南国市立大篠小学校3年4組	H26.2.13	33	2	35	遺跡学習, 展示見学
⑳	チューリップの会	H26.3.12	20	0	20	遺跡学習, 展示見学, 館内見学
㉒	東京文化財研究所	H26.3.26	9	0	9	災害対策に関する調査
合計			759	78	837	

○は学校関係以外の見学

2. 指定管理事業

けを行うことが重要となってくる。

また、職場体験学習として介良中学校(2名)と香長中学校(2名)の生徒の受け入れを行った。埋蔵文化財センターでは、考古学に関連する実習や研修を受入れる体制を取っているものの、年度によって申込の増減がみられることから、今後は日頃から機会がある毎にアナウンスすることが重要であると考えます。

また、発掘調査に伴う現地説明会(表17)なども1回開催した。



写真12 施設見学

表17 平成25年度現地説明会一覧

No.	場 所	遺跡名	開催日	参加者	対 象
1	高知市	追手筋遺跡	平成25年12月15日	280人	一 般

(4) 出前考古学教室

普及教育事業の中核をなし、本年度で16回(表18)を数える。申込校は平成18年度以降年々増加し、平成22年度には108校を数えたが、本年度は79校であった。可能な限り学校の要望に応えるべく、実施回数は前年度より8回多い87回実施し、実施校も前年度より8校多く、79校であった。

① 概要

本年度は79校(87回)(表19・20)で実施した。校種別では小学校76校、中学校2校、高等学校1校

表18 平成10～25年度出前考古学教室実績一覧

No.	年 度	実施対象地域	対象学年	実施回数	実施校数	実施期間	授業生徒数	参加生徒数
1	平成10年度	南国市	小・中学校	8回	8校	前期/試行	450人	450人
2	平成11年度	南国市	小・中学校	10回	10校	前期	505人	1,428人
3	平成12年度	全県下	小学校	28回	40校	前期	1,352人	3,789人
4	平成13年度	全県下	小学校	26回	27校	前期	1,060人	2,233人
5	平成14年度	全県下	小学校	27回	31校	前期	944人	2,541人
6	平成15年度	全県下	小学校	29回	31校	前期	1,232人	2,121人
7	平成16年度	全県下	小学校	31回	41校	前期	1,083人	1,083人
8	平成17年度	全県下	小学校	33回	34校	前・後期	1,049人	1,357人
9	平成18年度	全県下	小学校	51回	60校	前・後期	1,772人	1,703人
10	平成19年度	全県下	小・中学校	51回	69校	前・後期	2,058人	2,467人
11	平成20年度	全県下	小・中学校	52回	64校	前・後期	1,688人	2,088人
12	平成21年度	全県下	小・中・高等学校	48回	53校	前・後期	1,369人	1,438人
13	平成22年度	全県下	小・中・高等学校	65回	66校	前・後期	2,470人	2,571人
14	平成23年度	全県下	小・中・高等学校	61回	64校	前・後期	2,045人	2,223人
15	平成24年度	全県下	小・中・高等学校	79回	71校	前・後期	2,710人	2,937人
16	平成25年度	全県下	小・中・高等学校	87回	79校	前・後期	3,184人	3,242人
合計				686回	748校		24,971人	33,671人

表19 平成25年度出前考古学教室前期実績一覧(授業実施数)

No.	実施日	市町村名	学校名	学年	クラス数	人数
1	4/18(木)	南国市	日章小学校	6	1	39
2	4/19(金)	室戸市	羽根小学校	6	1	12
3	4/22(月)	黒潮町	佐賀小学校	6	1	25
4	4/23(火)	津野町	精華小学校	6	1	8
5	4/25(木)	高知市	鏡小学校	6	1	13
6	4/26(金)	本山町	本山・吉野小学校	6	1	23
7	4/30(月)	いの町	川内小学校	6	1	15
8	4/30(月)	須崎市	吾桑小学校	6	1	13
9	5/1(水)	南国市	久礼田小学校	6	1	30
10	5/1(水)	香美市	片地小学校	6	1	15
11	5/2(木)	いの町	伊野南小学校	6	2	43
12	5/7(火)	須崎市	南小学校	6	1	4
13	5/7(火)	須崎市	安和小学校	5,6	1	9
14	5/9(木)	四万十市	東中筋小学校	6	1	20
15	5/9(木)	四万十市	竹島小学校	5,6	3	17
16	5/10(金)	四万十市	下田小学校	6	1	18
17	5/13(月)	香美市	楠目小学校	6	1	32
18	5/14(火)	北川村	北川小学校	5,6	2	26
19	5/15(水)	四万十町	仁井田小学校	5,6	2	14
20	5/16(木)	香美市	大橋小学校	6	1	14
21	5/17(金)	高知市	高知北高校	1~3	1	16
22	5/20(月)	大月町	大月小学校	6	1	30
23	5/21(火)	土佐市	高石小学校	6	1	19
24	5/22(水)	高知市	久重小学校	6	1	13
25	5/23(木)	いの町	長沢小学校	1~6	3	13
26	5/24(金)	土佐市	蓮池小学校	6	2	42
27	5/27(月)	南国市	大篠小学校	6	4	136
28	5/27(月)	南国市	長岡小学校	6	2	42
29	5/28(火)	大豊町	大豊小学校	6	1	5
30	5/28(火)	大豊町	大杉小学校	6	1	11
31	5/29(水)	土佐市	宇佐小学校	6	1	26
32	5/30(木)	黒潮町	上川口小学校	5,6	2	10
33	5/30(木)	黒潮町	入野小学校	6	1	27
34	5/31(金)	高知市	潮江東小学校	6	3	84
35	5/31(金)	高知市	潮江小学校	6	3	84
36	6/3(月)	津野町	中央小学校	6	1	26
37	6/4(火)	高知市	旭小学校	6	3	81
38	6/4(火)	高知市	横浜新町小学校	6	3	84
39	6/5(水)	高知市	はりまや橋小学校	6	2	69
40	6/6(木)	黒潮町	田ノ口小学校	6	1	13
41	6/7(金)	高知市	旭東小学校	6	2	56
42	6/9(日)	高知市	附属小学校	5,6	4	133
43	6/10(月)	黒潮町	三浦小学校	6	1	5
44	6/11(火)	四万十市	東山小学校	6	2	49
45	6/12(水)	高知市	昭和小学校	6	2	85
46	6/13(木)	須崎市	新荘小学校	6	1	13
47	6/14(金)	東洋町	甲浦小学校	5,6	2	21
48	6/17(月)	宿毛市	咸陽小学校	6	1	33
49	6/18(火)	宿毛市	大鳥小学校	5,6	2	39
50	6/18(火)	宿毛市	小筑紫小学校	5,6	2	28
51	6/20(木)	須崎市	浦ノ内小学校	6	1	22
52	6/24(月)	香美市	香長小学校	6	1	11
53	6/25(火)	仁淀川町	長者小学校	6	1	8
54	6/26(水)	越知町	越知小学校	6	1	34
55	6/28(金)	高知市	潮江南小学校	6	3	85
56	7/1(月)	高知市	一ツ橋小学校	6	2	72
57	7/4(木)	土佐清水市	清水小学校	6	2	69
58	7/5(金)	三原村	三原小学校	6	1	11
59	7/11(木)	大豊町	大田口小学校	1~6	3	8
60	7/12(金)	土佐市	高岡第二小学校	6	1	22
61	7/18(木)	四万十市	西土佐小学校	6	1	29
62	8/30(金)	香美市	大宮小学校	6	1	38
合計						2,092

2. 指定管理事業

表 20 平成 25 年度出前考古学教室後期実績一覧(授業実施数)

No.	実施日	市町村名	学校名	学年	クラス数	人数
1	10/17(木)	安田町	安田小学校	6	1	25
2	10/21(月)	高知市	一宮東小学校	5	2	64
3	10/23(水)	黒潮町	拳ノ川小学校	5,6	2	9
4	10/31(木)	高知市	五台山小学校	6	1	20
5	11/1(金)	香南市	佐古小学校	3	2	42
6	11/2(土)	土佐市	戸波中	1	1	52
7	11/7(木)	高知市	三里小学校	6	1	18
8	11/15(金)	南国市	稲生小学校	6	1	18
9	11/21(木)	南国市	稲生小学校	4~6	1	8
10	11/22(金)	香美市	舟入小学校	6	1	23
11	11/25(月)	安田町	安田小学校	5	1	19
12	11/26(火)	高知市	小高坂小学校	6	2	62
13	11/27(水)	高知市	春野中	1	3	118
14	11/28(木)	安田町	安田小学校	6	1	25
15	12/10(火)	高知市	布師田小学校	6	1	18
16	12/12(木)	四万十町	田野々小学校	6	1	19
17	1/14(火)	四万十町	田野々小学校	6	1	19
18	1/16(木)	宿毛市	平田小学校	6	1	23
19	1/17(金)	高知市	長浜小学校	6	3	116
20	1/27(月)	南国市	大篠小学校	3	2	66
21	1/28(火)	南国市	大篠小学校	3	2	66
22	2/6(木)	高知市	三里小学校	6	2	55
23	2/8(土)	香美市	山田小学校	4	3	75
24	2/24(月)	南国市	大篠小学校	3	2	66
25	2/25(火)	南国市	大篠小学校	3	2	66
合計						1,092

である。授業等を受けた児童生徒は3,184人、見学のみの児童生徒58人を含めると参加者は3,242人を数える。実施に際しては、前年度に各学校に文書を送付し、4月初旬から中旬にかけて実施校と電話及びファックスで開催日時や学習等の内容について打ち合わせを行った。4月18日の南国市立日章小学校を皮切りに、2月25日の南国市立大篠小学校まで、79校で実施し、87回の出前数であった。小学校の歴史の授業は9月までに終わるので、学校側は前期の出前を希望することが多い。前期に実施できなかった学校は後期には希望しないことが多いので、できる限り前期に実施した。このため例年より回数は多くなり、出前が1日2回(2校)ということも複数回あった。前期は回数が多くハードであったが、後期は回数も25回でゆとりをもったカリキュラムが行え、前期の授業内容に土器づくりを付け加え行った学校もある。後期はゆとりをもち、活動内容も多くしていくことは有効であった。

また、ボランティアによる協力は前期のみで3人の方に協力してもらった。今後はボランティアを増やせるよう検討をしたいと考える。

i 前期

前期は62回・63校(表19)で実施した。授業を受けた児童生徒は2,092人、見学のみの児童生徒58人を含めると2,150人を数える。4月初旬に電話とファックスで、実施日の時間帯や授業・体験学習の内容などについて打ち合わせを行い、4月18日の南国市立日章小学校から8月30日の香美市大宮

小学校までの63校で実施した。

ii 後期

後期は25回・17校(表20)で実施した。授業を受けた児童生徒1,092人、見学のみの児童生徒はなく参加者は1,092人であった。後期は1学期の終業式に合わせ、7月下旬に電話で日時の確認を行い、8月下旬から9月上旬にかけて各校との打ち合わせ(実施日の確認・実施内容の検討)を始めた。そして10月17日の安田町立安田小学校から2月25日の大篠小学校までの17



写真13 授業

校で実施した。後期は土器焼き体験を実施した関係や複数学年など、同一校で複数回実施した学校があるため回数に比べ学校数が少なくなっている。(なお、複数回実施したのは三里小・稲生小・田野々小各2回、安田小3回、大篠小4回である。)

② 内容

出前考古学教室の内容は、大別すると「授業」・「体験学習」・「展示」の3つから構成される。「授業」は各時代の特徴を踏まえつつ、高知県の各地域(主に身近な地域)の遺跡との関連性を捉えながら行うこととし、「体験学習」は火起こし、勾玉づくり、土器づくりなどである。いずれも歴史的背景を踏まえつつ児童生徒の地域の歴史に対する興味、関心を喚起し文化財保護精神を育成する目的をもった内容である。

また、本年度もボランティアの方々に火起こしや勾玉づくりの支援と協力をして頂いた。

i 授業

多くの児童生徒は高知県や地域の遺跡を知らない。自分たちの地域に遺跡があるか、ないかと聞くと8割の生徒がないと答えた。また、教員が知らないこともあった。

遺跡に興味をもつことは郷土の先人の生活や生き方を知ることであり自分たちの地域を考えることでもある。昔の人の知恵を学びそれを現代に生かし、自分たちの地域に誇りをもってほしい。そのような思いをもって出前教室を実施してきた。出前の授業については、歴史の学習をしている6年生を中心に、社会科の歴史学習の一環として行うことが多く、学校では時代の流れや日本の代表的な遺跡の学習はしているが高知県や校区周辺の遺跡の学習まで行っていない現状がある。こうしたことから生徒だけではなく、教員にも地域の遺跡を知ってもらうために遺跡地図を学校別に作成し、埋蔵文化財に関心をもたせる授業展開を行い、発問により児童生徒の思考を深めるようにした。そのほか視聴覚機器を活用して、発掘現場の調査内容や整理作業の進め方、当センターの事業などについて説明した。

ii 遺物の展示解説(以下展示)

遺物は旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代、中世のものを展示した。児童生徒は写

2. 指定管理事業

真でしか土器や石器を見たことがないので、実物を見ると「これ本物？」と目を輝かせていた。直接触れる機会が極めて少ないので手にすると笑顔になり友達と感動していた。展示も発問をすることにより、興味関心だけではなく自らの生活を考えさせた。遺物を見たり、触れたりすることで古代の人々の生活を考え、埋蔵文化財の大切さを知る機会にもなった。



写真14 遺物の展示解説

iii 体験学習

a. 火起こし

舞錐(まいぎり)式を中心にしてペアで火起こしを行い、発火したペアは希望すれば錐揉み(きりもみ)式にチャレンジした。この体験は、自然物を使った道具で児童生徒が火を起こし、火を起こすことの不思議な喜びを実感することと、苦勞して火を起こすことで現代の恵まれた環境を見直すことにある。私たちは日々の生活で簡単に火をつけているが、それは先人が生活の中で努力や工夫によって身につけた知恵である。また古来の日本では火を神聖なものとして扱ってきたという歴史があり、昔の人々は火を大切にしてきたことを知るといふねらいもある。火起こしは当日の天候や、使用する道具の「火きり棒」と「火きり板」との相性により発火具合が左右されることもある。発火に時間がかかる児童生徒もあったが、最後まであきらめずに取り組みほとんどのペアが発火させることができた。発火させた時の児童生徒の嬉しそうな顔は忘れられない。協力することの大切さも実感できたのではないだろうか。

b. 勾玉づくり

材料の滑石は軟らかく工作が容易なので児童生徒は短時間でオリジナル勾玉を作成できる。勾玉は子孫繁栄を祈る装身具や、権力の象徴として作られたなどと考えられており、様々な形の勾玉がある。副葬品として古墳などから出土することが多く高知県でも数多くの勾玉が出土している。このような由来を勾玉の写真を見て学習をした後、作り方を説明し勾玉づくりを行った。作成時間は1時間であるが



写真15 火起こし

丁寧に磨く時間が不足するために慌ただしさを克服することが課題であった。予め勾玉の素材となる滑石に勾玉の絵を描いておくよう依頼した学校もあったが学校側の希望する授業時間との兼ね合いもあって、ゆとりがないこともあった。考古学教室の中で児童生徒に一番人気のあるのが勾玉づくりであり、欠かすことのできない体験学習である。

c. 土器づくり

本年度も後期の出前教室で土器づくりを行った。本年度は3校の希望があり昨年度の6校から減少しているが、すべての学校で好評であった。最初の2時間で土器づくりをして出来上がった土器

を1ヵ月間以上乾燥させて、次回の出前の2時間で土器焼きを行った。土器焼きはまず耐火レンガの上で土器を30分炙り、次の30分で火元に近づけ、最後の30分で火の中に入れることになる。児童生徒は土器焼きの途中に土器の変遷についての授業を教室で行い、単に土器焼きを体験するだけではなく古代の人々の知恵について考えていった。

土器づくりをすると土器の文様に敏感になり展示解説でも見る目が違って来る。遺物に対する興味関心を高めるには絶好の体験である。

野焼きを経験している児童生徒は少なく、初めての焼き物を喜んでいる児童が多かった。より多くの学校での実施をできるよう働きかけをしてゆきたい。



写真16 土器づくり

③ 本年度の成果

授業では地域や県内の遺跡、発掘調査の方法を中心に話をしたが、児童生徒は積極的に参加していた。地域の遺跡に興味をもった児童生徒は遺跡を見に行ったという話や実際に埋蔵文化財センターを訪ねてきた小学生もいた。遺物の展示解説では遺物に直接接触してもらっており、地域の先人の息吹を感じ興味や関心が高まったと考えられる。体験学習では火起こしや勾玉づくりや土器づくりを通して、古代人のくらしや生活の一部を知り昔の人々の思いを考えることができた。埋蔵文化財に対する児童生徒の意識も一層高まったと考える。アンケート結果をみると児童生徒、教員共に好評であることから成果は上がっていると判断できる。次年度以降も希望する学校に多く出向くことは有意義であり、来年度も県下の多くの学校に出前考古学教室を実施していきたい。

④ 今後の課題

i 実施回数等について

79校で87回実施した。前期の実施期間は3ヶ月と短い、小学校の授業と平行しての考古学教室を希望している学校が多く、希望が前期に集中している。後期は希望校が少ないので工夫した広報活動が必要である。年間を通じて実施回数が増加していることはこれまでの取り組みの成果が現れてきたことと考えられるが、県東部地域の応募が少ないことから、これらの地域への普及活動に一層力を入れていくことが大切と考える。また、中学校や高等学校への広報普及を積極的に取り組んでいきたい。

ii 活動内容について

授業については、視聴覚機器を使って写真や図などを見せたり、また遺物の実物を見せたりして興味関心を持たせるように工夫しており、児童生徒の感想では、授業が楽しい、わかりやすい、遺跡に興味を持ったという感想が多い。時間の制約がある中、児童生徒が理解できる内容を今後とも考えていきたい。遺物展示の解説については、旧石器・縄文・弥生時代までは集中して聞いているが、

2. 指定管理事業

古代以降の説明に対してはやや集中力を欠くことがあったので工夫をしてゆく必要がある。なにより、古代の人々の作った土器に触れることができる体験は貴重である。体験学習については、火起こしや勾玉づくりは単なる体験学習だけではなく火の利用による意味や勾玉づくりの意味を考える機会となった。

iii アンケート集計結果について(児童生徒, 教員)

〈児童生徒〉

参加については「楽しかった」99.0%、「楽しくなかった」0.3%、「無回答」0.7%で、もう一度勉強してみたいかどうかについては「してみたい」99.2%、「したくない」0.6%、「無回答」0.2%であった。アンケート結果から体験学習が極めて好評であること、この教室を通じて埋蔵文化財に多くの児童生徒が興味・関心を持ったことが窺われる。

〈教員〉

実施については「とても良かった」91.4%、「良かった」8.6%で、「あまり良くなかった」と回答した教員はいなかった。今後については「希望する」93.1%、「希望しない」1.7%、「無回答」5.2%となっており、昨年度より満足度はあがっている一方、昨年度は「希望しない」の回答がなかったが今年度はあるため、その原因を分析する必要がある。アンケートで評価が高かった内容は火起こしと授業(地域の遺跡について)であった。これまでも児童生徒がいきいきと活動できたという意見や、社会科は苦手だったが歴史が好きになったなどという意見が寄せられており、着実に成果があがっている。担当職員数や時間的な制約は否めないが、アンケート結果を踏まえ、今後の授業の内容や体験活動をさらに充実させるため、学校現場との連携を密にしていきたい。

iv 道具類について

火起こしの道具は基本的に舞錐(まいぎり)式を利用しているが、老朽化が始まっており順次更新の必要があるため、今後は安価でより良い道具をどのように調達していくかが課題である。火種を落とすものとして脱脂綿を利用しているが、火種が抜け易く発火に至らない事もあった。舞錐(まいぎり)式で火起こしができた児童生徒については、錐揉み(きりもみ)式に挑戦するようにしている。心棒は既成の檜以外に当センターで栽培加工したウツギ(空木)も利用しており、着火率は檜より高い傾向にある。

v 担当職員について

2名の担当職員を中心に運営したが、児童生徒の多い学校では他の職員の協力を得て対応した。職員間で連携をとりながら授業や展示解説、体験学習(火起こし、勾玉づくり)に精力的に臨んだ。高知市内の小学校では100人以上の児童が対象のことも多くボランティアの協力が望ましいが、協力が得られない場合には限られた職員でどのように対応するか等課題も残る。

(5) 研修事業

職員の資質向上及び最新の情報を得るため職員専門研修(表23)を行うとともに独立法人国立文

表21 平成25年度埋蔵文化財担当者研修参加者

No.	研修名	研修場所	研修期間	研修者
1	建造物保存活用基礎課程	奈良文化財研究所	平成25年6月24～28日	山崎 孝盛
2	保存科学基礎Ⅱ課程	〃	平成25年10月17～25日	宮里 修
3	平成25年度第1回埋蔵文化財担当職員等講習会	岐阜県岐阜市	平成25年9月10～12日	宮里 修

表22 平成25年度職員自主企画研修

No.	研修名	研修場所	研修期間	研修者
1	遺跡出土シジミガイ類遺存体からみた 生業活動の変化	島根県松江市・出雲市	平成26年3月10～14日	菊池 直樹
2	朝鮮半島青銅器文化の鑄造技術に関する 調査と学会発表	大韓民国	平成25年8月19～27日	宮里 修

表23 平成25年度職員専門研修

No.	研修内容	開催日	講師名	所属・役職
1	古代寺院と古代官衙研究の現状と課題	平成25年11月20・21日	須田 勉	国士舘大学文学部教授

化財機構奈良文化財研究所が行う埋蔵文化財担当者研修に2名、文化庁主催の埋蔵文化財担当職員等講習会に1名(表21)が参加し、また財団自主企画研修として2名(表22)が研修を行った。

職員専門研修(表23)は、本年度から年1回の開催とし、国士舘大学文学部須田勉教授を招聘して実施した。また、当センターの職員以外にも市町村教育委員会に案内し、11月20日は4名(高知市と香南市から各2名)、11月21日は2名(高知市と香南市から各1名)の参加があった。

演題は、「古代寺院と古代官衙研究の現状と課題」で、研修の講義は、Ⅰ 評(こおり)(大宝律令から郡)・郡衙遺跡の調査成果と課題、Ⅱ 郡衙周辺寺院の調査成果と課題、Ⅲ 国府の調査成果と課題、Ⅳ 初期地方成立の問題、Ⅴ 国分寺造営をめぐる問題の5項目について行われた。

まず、国衙の成立に先行する評・郡衙関連遺跡については、松山市の久米官衙遺跡などを例に取り前期評衙(7世紀中葉以降に成立)と後期評衙(7世紀第Ⅳ四半期に成立し、8世紀以降郡衙として連続)の現状と課題を解説して頂いた。高知県では確認されていないものの国衙成立の前身として存在する可能性が示唆される。また、稲の収蔵施設としての正倉院(稲倉)の成立時期や祭祀を巡る問題点などについても言及された。国府、国衙については、宮城県の郡山遺跡などを例に7世紀末ないし8世紀初頭の初期国庁の建物配置を含む遺構の状況と同じ宮城県の多賀城跡を例に8世紀第Ⅱ四半期頃から出現する定型化した国庁について解説して頂いた。最後に、国分寺造営をめぐる問題について、他の寺院が基本的に金堂を最初に造るのに対し、造営の詔勅では、塔(七重塔)の造営を優先していること、造営の詔が出てから6年後の天平19年に国分寺造営督促の詔が出され、諸国一斉に国分寺造営が着手されたこと、さらに9年後の天平勝宝8年に造営が遅れた国々に督促令を発令したことや国分寺の寺院構造などについて解説頂いた。県内では、国衙や郡衙以外の官衙関連遺跡の調査例が散見され、郷家の施設ではないかとみられるものの、郷家に関する文献資料がないことから一般的には国庁や郡庁で見られる定型化した施設はなかったので



写真17 職員研修

2. 指定管理事業

はないかと考えられており、今後それらの施設の性格付けを含め古代の遺跡を考えて行く上で参考となる研修であった。

表24 平成25年度講師等派遣依頼一覧

日・期間	派遣職員	依頼元	内容	備考
4月27日	廣田佳久	高知市教育委員会生涯教育課	市民講座講演： 「埋蔵物から知る高知の歴史」講師	江ノ口コミュニ ティーセンター
6月14日	廣田佳久	(公財)高知市文化振興事業団	高齢者教室講演： 「最近の発掘調査成果について－古代の 遺跡を中心に－」講師	高知市中央公民館 大講義室
7月8日	藤野明弘 久家 隆芳 下村裕	四万十町特別支援研究会	遺物展示・説明、勾玉づくり指導	四万十町立 興津小学校
7月8日	茂松清志	南国市立大篠小学校	第3学年総合的な学習 「すてき、発見！南国市(大篠)の宝物！」 ゲストティーチャー	南国市立大篠小学校 多目的室
11月16日	吉成承三	高知県立歴史民俗資料館	講演：「土佐国に流通した備前焼につい て」講師	高知県立歴史民俗資 料館多目的ホール
12月3日	筒井三菜	観光ボランティア協会 「かよう会」	「発掘調査で明らかになった高知城」 現地説明	高知城
1月9日	出原恵三	高知南ロータリークラブ	高知南ロータリークラブ例会 講話講師	ザ クラウンパレス 高知新阪急ホテル
1月10日	坂本裕一	南国市教育委員会生涯教育課	十市・稲生高齢者教室 「発掘調査からみえる歴史」講師	十市高齢者多世代 交流プラザ
2月9日	吉成承三	(公財)徳島県埋蔵文化財 センター	アワコウコ楽公開講座 「四国の中世－中世四国の城と館－」講師	徳島県立埋蔵文化財 総合センター
2月14日	吉成承三	高知城友の会	講演：「高知城下町の発掘調査成果」講師	高知県立文学館
3月8日	藤野明弘 坂本裕一	安芸広域市町村圏事務組合	「高知東海岸 ハビもぐ海山フェスタ」 勾玉づくり指導	こうち旅広場
3月17日 ～19日	出原恵三	沖縄県立埋蔵文化財センター	平成25年度 戦争遺跡詳細確認調査に 伴う現地指導	沖縄本島各地

表25 平成25年度会議等参加者一覧

No.	参加会議等	参加日	参加者
1	平成25年度第1回「統・発掘へんろ」愛媛会場展示・実行委員会	平成25年4月24・25日	坂本憲昭・坂本裕一
2	第34回全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会(草津市)	平成25年6月20・21日	廣田佳久
3	平成25年度第2回「統・発掘へんろ」高知会場展示・実行委員会	平成25年6月27・28日	坂本憲昭・坂本裕一
4	平成25年度第3回「統・発掘へんろ」香川会場展示・実行委員会	平成25年9月12日	坂本憲昭・坂本裕一
5	平成25年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議(徳島市)	平成25年10月3・4日	廣田佳久・山崎孝盛
6	平成25年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会(さいたま市)	平成25年11月21・22日	森田尚宏・坂本裕一
7	平成25年度第4回「統・発掘へんろ」徳島会場展示・実行委員会	平成26年1月8日	坂本憲昭・坂本裕一
8	平成25年度第5回「統・発掘へんろ」徳島会場撤収・実行委員会	平成26年3月19日	坂本憲昭・坂本裕一

(6) 講師等職員の派遣

県内外の施設及び団体からの講演や講師の依頼に対し、埋蔵文化財広報普及の観点からできる限り対応することとして、本年度は12件(表24)の派遣を行った。なお体験を伴うものも学校以外では本年度においては講師派遣としてあつかった。会議等への参加者は表25のとおりである。

IV 各遺跡の発掘調査概要

1. 田村北遺跡(13-INTK)

所在地	南国市田村
立地	沖積平野
時代	弥生時代～近世
調査期間	平成25年4月1日～平成25年6月30日
調査面積	650㎡
担当者	池澤俊幸・山崎孝盛
調査内容	田村遺跡群では、弥生時代の大規模集落や各所



図10 田村北遺跡位置図

に展開する古代の建物跡群、中世の守護(代)所である田村城館跡と家臣団屋敷跡群、周辺では旧海軍航空隊関連遺構の存在が従来より注目されてきた。今回自動車道建設計画に伴い、2011年より行ってきた田村北遺跡の調査では、弥生中期後半を中心とする集落の広がり、終末期に至る遺構・遺物を検出することができた。古墳時代以降では、古墳後期の竪穴建物跡群や方位に統一性のある古代の建物跡群、畔状遺構等を検出し、該期の土地利用の変遷に関する資料を得ている。中世では区画溝を有する屋敷跡を検出し、田村城館の北側にも屋敷群が展開している可能性が考慮されるようになった。近現代では、9.4×10mの大型遺構等より、統制陶器とともに化粧品、各種薬品の容器、蹄鉄、その他雑器類等多様な遺物が出土している。

本年度は今次調査の最終年度で、調査面積はこれまでと比較して限定的であるが、弥生から現代におよぶ遺構・遺物を検出した。なお本遺跡は、一連の調査成果により田村遺跡群に包摂された。弥生時代では、幅1mの弥生時代の溝跡から打製石斧が出土した。古代では、2基の土坑や柱穴を確認した。長方形プランを呈する土坑1基より、須恵器平高台椀の下部が出土しており、11世紀代に位置付けられる。

近世の遺構の中にいわゆるハンダ土坑があるが、今次検出例は設置された桶状の材が遺存していた。その他、近世の柱穴や区画溝跡が検出され、当地点が屋敷地であったことを示す。なお、調査区



写真18 田村北遺跡調査風景

の臨地には元禄以降の年代を刻んだ墓石群が現存する。

近代以降では3.0×2.8m、深さ1.5mを測る竪穴遺構を検出した。平面形L字状で壁面は直立しており、アジア・太平洋戦争に関する遺構である可能性が高い。遺物は、近現代陶磁器や瓦に加えて蹄鉄が出土している。既述した昨年度の成果と併せて、「四国防衛」戦に向かっていた時期を含む時代の、当集落における実相を知る資料である。

2. 追手筋遺跡

2. 追手筋遺跡(13-2KO)

所在地 高知市追手筋二丁目

立地 沖積地

時代 近世

調査期間 平成 25 年 8 月 5 日～平成 26 年 2 月 6 日

調査面積 3,600 m² (延べ面積 9,119 m²)

担当者 徳平涼子・菊池直樹・畠中宏文

調査内容 追手筋遺跡は高知市追手筋二丁目に位置し、史跡高知城跡の追手門から東に延びる追手筋に面しており、江戸時代の高知城下町が残る可能性の高い高知郭中参考地域に当たる。

この場所が高知県と高知市が計画している新図書館等複合施設建設の予定地となったことを受け、埋蔵文化財の有無及び包蔵地の範囲を確認するための試掘調査が行われた。その結果、江戸時代の遺物包含層及び遺構が確認され高知城下町が残存していることが明らかとなり、追手筋遺跡と命名され本格的な発掘調査が行われることとなった。

調査地は江戸時代の絵図によると二つの屋敷からなっており、調査地東側は江戸時代前期には「山内左衛門守」、江戸時代後期には「村田三兵衛」、調査地西側は江戸時代前期には「百々伊織」、江戸時代後期には「山内源蔵」などの名前がみられる場所であり、江戸時代においては上級武士の屋敷が存在したことがわかっている。

今回の調査は高知城下町の発掘調査では過去最大の面積であり、江戸時代の多くの遺構・遺物が確認された。また、調査以前は小学校の校庭であったため 100 年間大きな開発を逃れたことから遺

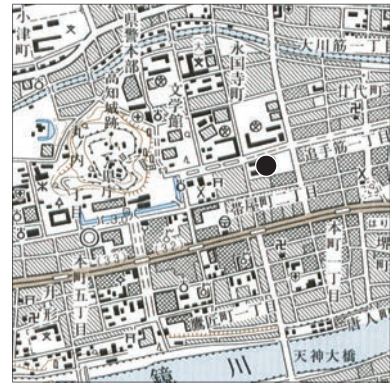


図11 追手筋遺跡位置図



写真19 追手筋遺跡全景



写真20 村田家池跡

構の残存状況も極めて良好であり歴史が残る非常に貴重な場所であったと言える。江戸時代においても何度も盛土をして整地を行っており、江戸時代の整地層及び遺物包含層は多いところでは5面、厚さ100cmを測り、江戸時代の初期から幕末までの遺構を確認することができた。特に江戸時代の武家屋敷に伴う池跡が確認されたのは県内で初めてであり、全国的にみても類例が少ない非常に貴重な発見であったと言える。

中でも調査区北東部で確認された池跡については全国屈指の残存状況で全容が判明しており、絵図より藩医であった村田家の池跡と考えられ、所有者も判明している非常に貴重な資料である。この池跡は、江戸時代後期に築造され近代まで改修しながら機能していたとみられる。不整形を呈し、東西15.9m、南北18.0mを測り、石灰岩やチャート、砂岩などを用いて護岸をしており、多い箇所では4段程度の石積みが残る。北西部分は赤や緑の小さな河原石を貼付けており、この池跡の最も特徴ある部分となっている。さらに石積みの下には桐木を敷いて杭で止めている箇所もみられ、地盤が緩いために沈み込まないようにしていたことがわかる。池跡の東と西には石組みの水路が繋がっており、いずれの水路も北側の追手筋の方向に伸びている。これらの水路は池跡の導水及び排水に用いられていたものとみられ、追手筋に水路があり水を引いていた可能性が高い。また、池跡には中島と水上に張り出した施設が存在したものとみられる。この池跡は小さな石を積んでいることや石積みが傾斜をもっていること、河原石を使用していることなどが特徴である。庭園の歴史を牽引してきた京都の池跡は大きな割れ石を一段のみ置き、重ね積みをしないのが通例であり、今回確認した池跡は京都風ではない特徴的な

写真21 木簡
「百々出雲」

2. 追手筋遺跡

池跡と言える。県内では竹林寺で江戸時代の池跡がみられるが、この池跡は京都風の造りになっている。城下町と寺院跡で異なる工法を採用しているのは遺跡の性格によるものなのか、出土遺物の詳細な検討と共に今後詳しく検討していかなければならない。

また、木簡の出土は約 100 点と県下最大量を誇る。木簡はまだ判読がされていないものが多いが、紀年銘や個人名の墨書がみられるものも含まれ、中でも「山内」、「百々出雲」、「村田」といった絵図により調査地の屋敷跡に居住していたとされる人物の名前もあり、絵図を裏付ける非常に貴重な資料も出土している。また、江戸時代の絵図に描かれていた屋敷境の溝跡が発掘調査で確認できたことも注目される。屋敷境の溝跡は江戸時代前期から近代まで幅を変えながら絶えず存在していたものとみられ、現在の町割りが江戸時代の初めまで遡ることがわかる。また江戸時代の前期から中期には屋敷境の溝跡は幅約 8 m を測り、水を湛えていたことも判明した。池跡の導排水路と考えられる溝跡がいずれも追手筋方向に伸びていることから追手筋沿いにも用水路があった可能性が高く、絵図には用水路が描かれていないが、高知城下町には知られているよりも多くの水路が存在したものとみられる。

集水枡についても県内で初めて確認された。集水枡は屋敷内に上水を供給するための施設で、土中に桶を埋め、桶の間を樋で繋ぎ樋の屈折点や分岐点、勾配を付ける際にも用いられたと考えられている。追手筋遺跡では 2 基の集水枡が確認されており、集水枡からは竹樋が延びていた。竹樋と竹樋を繋ぐ継手と呼ばれる円形の孔がある木製品も出土している。出土遺物から江戸時代前期のものともみられ、全国的な流れと同調する様に江戸時代前期には県内でも城下町内に水路が整備され、屋敷地内には竹樋を用いて水を引いていたこともわかり、発掘調査により武家屋敷の具体像が見えてきたと言える。



写真22 百々家池跡

3. 史跡高知城跡追手門(13-3KK・4KK)

所在地	高知市丸ノ内
立地	独立丘陵
時代	近世
調査期間	平成 25 年 9 月 9 日～10 月 10 日, 平成 26 年 2 月 19 日～3 月 7 日
調査面積	304 m ²
担当者	筒井三菜
調査内容	追手門東北矢狭間塀石垣は平成 10 年度に設置

された「高知城石垣調査委員会」の石垣総合調査の結果, 本丸の南側石垣, 三ノ丸石垣とともに, 崩落の危険性と修築の

必要性が指摘されていた。改修工事では特に孕みが著しい西面と, その西面石垣の解体により影響を受ける北面石垣の一部が改修範囲に決定された。そこで改修工事に伴い遺構・遺物の有無, 石垣背面構造の把握及び石垣が孕んだ原因等についての調査を行うこととなった。

石垣の構造は築石と雨水等の排水に重要な裏込め石, 盛土でなされていたが, 解体を進めていくと, 西面石垣の北側と南側では裏込め石と盛土に違いがみられた。天端については築石裏は盛土のみであったが, 2 段目以降は南側石垣においては裏込め石が確認された。北側においては裏込め石が認められたのは石垣列 3 段目からで, 南北で裏込め石に充填範囲の差がみられた。さらに背面盛土の観察では, 改修による盛土の違いとも考えられる状況が認められた。

また, 孕みの著しい石垣列の背面, 築石裏には約 60～80 cm 幅の裏込め石が詰められていたが, これらの裏込め石には盛土の流入がみられ, 裏込め石の突き固めも弱い状況であった。築石の控え

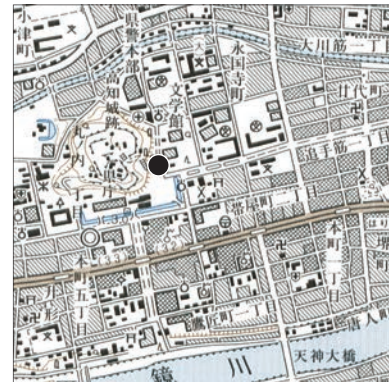


図12 史跡高知城跡
追手門石垣位置図



写真23 高知城追手門東北矢狭間塀石垣全景



写真24 追手門東北矢狭間塀西面石垣解体状況

の長さも短く、築石下には介石があてがわれていないなど、孕みの原因と思われる状況を確認した。

天端から6段目石垣列の築石裏は裏込め石が詰められ、その奥には築石大の石を5石配していた。これらの石を境に盛土と裏込め石が分かれるため、土留めの役割が考えられるものである。これより下段の築石背面は裏込め石のみで構成されているものと思われる。

解体調査終了後、根石の確認調査を実施した。北西隅角石に1箇所と西面石垣に沿って3箇所、そして石段下にトレンチを設定し掘削を行った。北西隅のトレンチでは地表下30cmより根石と考えられる石を検出し、現況の隅角石より西側に張り出し据えられている事を確認した。西面石垣のトレンチでは、地表下10～20cmにおいて水路の側石、さらに地表下約35～40cm地点からは水路底面と考えられる赤褐色のハンダ面を検出した。現況の水路では雨水等は南側の追手門に向かって流れ、それから堀に流れ込むようになっているが、今回確認した水路底面は南から北側に向かって低くなっており、年代は不明であるが、以前は北側に向かって排水をとっていたものと考えられる。

今回の解体調査によって石垣裏は裏込め石が少なく概ね盛土により構成されていることが判明した。今回の解体範囲については背面を裏込め石のみとする事で、排水面や石垣の強度を維持できるように改良を加え、原状に復する形で積み上げを行うこととなった。



写真25 石垣整備完成

V 条例・規則等

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(平成17年7月19日条例第55号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成3年高知県条例第3号)の全部を改正する。

(設置)

第1条 埋蔵文化財を調査研究し、及び保存するとともに、公開し、及び活用することにより、埋蔵文化財に関する知識を深め、もって県民文化の振興に寄与するため、高知県立埋蔵文化財センター(以下「センター」という。)を南国市に設置する。

(指定管理者による管理等)

第2条 センターの管理は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定に基づき、法人その他の団体であって、教育委員会が指定するもの(以下「指定管理者」という。)にこれを行わせるものとする。

2 前項の規定により指定管理者にセンターの管理を行わせる場合においては、教育委員会は、指定管理者の指定を受けようとするものを公募するものとする。ただし、センターの適正な管理を確保するため公募を行わないことについて相当の理由がある場合は、教育委員会が適当と認め法人その他の団体を指定管理者の候補者として選定することができる。

(休館日)

第3条 センターの休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 日曜日及び土曜日並びに国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- (2) 12月29日から翌年の1月3日まで

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が特に必要があると認めたとき又は指定管理者が必要があると認める場合であってあらかじめ教育委員会の承認を得たときは、同項に規定する休館日を変更し、又は臨時に休館日を定めることができる。

(利用時間)

第4条 センターの利用時間は、午前8時30分から午後5時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が特に必要があると認めたとき又は指定管理者が必要があると認める場合であってあらかじめ教育委員会の承認を得たときは、同項に規定する利用時間を変更することができる。

(センターの利用)

第5条 センターを利用する者(以下「利用者」という。)は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料(次条において「埋蔵文化財等」という。)の観覧、閲覧、撮影又は模写等を行うことができる。

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(遵守事項)

第6条 利用者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) センターの施設、設備若しくは埋蔵文化財等(以下「設備等」という。)を損傷し、又はそのおそれのある行為をしないこと。
- (2) 他の利用者に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、センターの管理上必要な指示に反する行為をしないこと。

(損害賠償義務)

第7条 利用者又は指定管理者は、故意又は過失によりセンターの設備等を損傷し、又は滅失したときは、これによって生じた損害を知事の認定に基づき賠償しなければならない。

(指定管理者が行う業務)

第8条 指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) センターの設備等の維持管理に関する業務
- (2) センターの設置の目的を達成するための事業の企画及び運営に関する業務

(指定管理者の指定の申請)

第9条 第2条第2項本文の規定により指定管理者の公募を行った場合において、同条第1項に規定する指定管理者の指定を受けようとするものは、教育委員会規則で定める申請書に次に掲げる書類を添えて、当該指定について教育委員会に申請しなければならない。

- (1) 前条各号に規定する業務(以下「業務」という。)に係る事業計画書
- (2) 前号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要なものとして教育委員会規則で定める書類

(指定管理者の指定等)

第10条 教育委員会は、前条の規定による申請があったときは、次の各号のいずれにも該当するもののうちから指定管理者の候補者を選定するものとする。

- (1) 前条第1号の事業計画書(以下この項において「事業計画書」という。)によるセンターの管理が県民の平等利用を確保することができるものであること。
- (2) 事業計画書の内容がセンターの効用を最大限に発揮させるとともに、その業務に係る経費の縮減が図られるものであること。
- (3) 事業計画書に沿った業務を安定して行う物的能力及び人的能力を有しており、又は確保できるものであること。

事業計画書による業務の実施により、県民の埋蔵文化財に関する知識を深め、県民文化の振興に寄与することができるものであること。

2 教育委員会は、第2条第2項ただし書の規定に基づき又は前項の規定により指定管理者の候補者を選定したときは、議会の議決を経て指定管理者として指定するものとする。

3 指定管理者は、その名称、主たる事務所の所在地その他教育委員会規則で定める事項に変更があったときは、遅滞なく、その旨を教育委員会に届け出なければならない。

(事業報告書の作成及び提出)

第11条 指定管理者は、毎年度終了後30日以内に、次に掲げる事項を記載した事業報告書を作成し、教育委員会に提出しなければならない。ただし、年度の途中において、第13条第1項の規定に

基づき指定を取り消されたときは、その取り消された日から起算して30日以内に当該年度の当該日までの間の事業報告書を提出しなければならない。

- (1) 業務の実施状況及び利用者の利用状況
- (2) 業務に係る経費等の収支状況
- (3) 前2号に掲げるもののほか、指定管理者によるセンターの管理の実態を把握するために教育委員会が必要であると認めるもの

(業務報告の聴取等)

第12条 教育委員会は、センターの管理の適正を期するため、指定管理者に対して、業務及びその経理の状況に関し定期に又は必要に応じて臨時に報告を求め、実地に調査し、又は必要な指示をすることができる。

(指定の取消し等)

第13条 教育委員会は、指定管理者が前条の指示に従わないときその他指定管理者による管理を継続することが適当でないと認めるときは、その指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命ずることができる。

2 前項の規定に基づき指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命じた場合において指定管理者に損害が生じても、県はその賠償の責めを負わない。

(指定等の告示)

第14条 教育委員会は、次に掲げる場合には、その旨を告示するものとする。

- (1) 第10条第2項の規定による指定をしたとき。
- (2) 第10条第3項の規定による名称又は主たる事務所の所在地の変更に係る届出があったとき。
- (3) 前条第1項の規定に基づき指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命じたとき。

(原状回復義務)

第15条 指定管理者は、その指定の期間が満了したとき又は第13条第1項の規定に基づき指定を取り消され、若しくは期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命ぜられたときは、その管理しなくなった設備等を速やかに原状に回復しなければならない。ただし、教育委員会の承認を得たときは、この限りでない。

(秘密保持義務)

第16条 指定管理者又は業務に従事している者は、高知県個人情報保護条例(平成13年高知県条例第2号)の規定を遵守し個人情報を保護するとともに、業務に関し知り得た秘密を他に漏らし、又は自己の利益のために利用してはならない。指定管理者の指定の期間が満了し、若しくは指定を取り消され、又は業務に従事している者がその職務を退いた後においても、同様とする。

(委任)

第17条 この条例に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

附則

(施行期日)

1 この条例は、平成18年4月1日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為)

2 この条例による改正後の高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(以下「改正後の条例」という。)第2条第1項に規定する指定管理者の指定及び当該指定に関し必要なその他の行為は、この条例の施行の日前においても、改正後の条例第9条並びに第10条第1項及び第2項の規定の例により行うことができる。

(経過措置)

3 この条例の施行の際現にこの条例による改正前の高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例第2条の規定に基づき委託している高知県立埋蔵文化財センターの管理については、平成18年9月1日(同日前に改正後の条例第10条第2項の規定による指定をした場合は、当該指定の日)までの間は、なお従前の例による。

2. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する規則

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則

(平成17年7月29日教育委員会規則第30号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則(平成3年高知県教育委員会規則第5号)の全部を改正する。

(趣旨)

第1条 この規則は、高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成17年高知県条例第55号。以下「条例」という。)第17条の規定に基づき、高知県立埋蔵文化財センター(第4条において「センター」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(指定管理者の指定の申請に必要な書類)

第2条 条例第9条の教育委員会規則で定める申請書は、別記様式によるものとする。

2 条例第9条第2号の教育委員会規則で定める書類は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 条例第8条各号に規定する業務に係る収支予算書
- (2) 定款、寄附行為、規約その他これらに類する書類
- (3) 法人にあっては当該法人の登記事項証明書、法人以外の団体にあっては代表者の住民票の写し
- (4) 前項の申請書を提出する日の属する事業年度及び前事業年度に係る財務諸表等経営の状況を示す書類
- (5) 前各号に掲げる書類のほか、教育委員会が必要があると認める書類

(指定管理者に係る変更届出事項)

第3条 条例第10条第3項の教育委員会規則で定める事項は、指定管理者の代表者の氏名とする。

(委任)

第4条 この規則に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附則

(施行期日)

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為として行う申請に必要な書類)

2 条例附則第2項の規定に基づき、条例の施行の日前において行う指定管理者の指定の申請に必要な書類については、第2条の規定の例による。

別記様式(第2条関係)

指定管理者指定申請書

3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指定

3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指定

高知県教育委員会指令24高文財第698号

公益財団法人高知県文化財団 様

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成17年高知県条例第55号)第10条第2項の規定により、高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者として指定します。

平成24年12月27日

高知県教育長 中澤 卓史

1 施設の名称

高知県立埋蔵文化財センター

2 指定期間

平成25年4月1日から平成30年3月31日まで

本書作成データ

ハード：MacPro 2×2.8GHz Quad-Core Intel Xeon, PowerBookPro/2.5GHz

システム：MacOSX(10.8.4)

ソフト：JeditX2.27, Adobe Photoshop®13.0.5, Adobe Illustrator®16.0.4, Adobe Indesign®8.0.1 など

フォント：モリサワOTF基本7書体, Times Italic など

プリンタ：DocuPrint C3540 (文書校正)

データ：Macintosh Full DTPで入稿

高知県埋蔵文化財センター年報

第23号

2013年度

発行日 平成26年10月15日

発行 (公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原1437-1

TEL 088-864-0671

印刷 共和印刷株式会社

